

学生支援本部プロフィール  
Student Support Profile

2022



学生支援本部

## CONTENTS

---

挨拶	02	キャリアサポートセンターの活動	28
組織・沿革	03	1. 今年度の特徴「オンラインによる就職支援」	
		2. 個別相談概要	
		3. イベント一覧	
		4. 進路状況	
		5. 国際学生の進路状況	
センター紹介	04	アビリティ支援センターの活動	37
学生相談センター／Student Counseling Center	05	1. 個別相談概要と特徴	
キャリアサポートセンター／Career Support Center	07	2. その他	
アビリティ支援センター／Ability Support Center	09	アビリティ支援センターの活動	37
ピアサポート／Peer Support	10	1. 個別相談概要と特徴	
		2. その他	
2021年度 学生支援活動報告	12	ホームカミングデイ企画(同窓会支援事業)報告	40
はじめに 2021年度コロナ禍における学生支援活動		1. ホームカミングデイ企画主旨	
		2. 当日の活動内容	
		3. LINEスタンプの作成	
		4. LINEスタンプの配布	
		5. LINEスタンプの例(一部)	
		6. 参加者アンケートまとめ	
大学の活動方針年表	13	その他	43
		・講義担当	
		・主な講演	
		・その他の主な学外イベント	
		・東海国立大学機構における岐阜大学との学生支援連携	
センター全体の個別相談実績	15	学生支援本部案内図	46
全学学生を対象とした活動	16	学生支援本部スタッフ一覧	裏表紙
・部局との連携による全学生面接			
・卒業生を中心とした寄付による学生への食料支援			
・新入生特別講義 大学生活入門2021			
・学生相互交流支援			
・SNSによる支援			
・FD活動			
2021年度に掲載されたメディア関係	21		
学生相談センターの活動	22		
カウンセリング・教育連携室	22		
メンタルヘルス支援	26		
共修推進	27		

## ご挨拶

学生支援本部長 佐久間淳一



名古屋大学学生支援本部は、学生支援センターを改組して、2021年4月1日付で設立された新組織で、今年度は発足2年目ということになります。もともと、学生支援センター自体、2019年4月に設置されたばかりの組織でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大が学生の心身の健康に深刻な影響を及ぼす中で、学生支援の重要性、とりわけ一次支援を強化する必要性があらためて認識されるに至ったことから、学生支援体制の一層の強化を企図して、更なる改組が行われることとなりました。この間、2020年4月には東海国立大学機構が設立されましたが、この改組によって、学生支援における岐阜大学との連携にも、一層強力な体制で臨めることとなります。

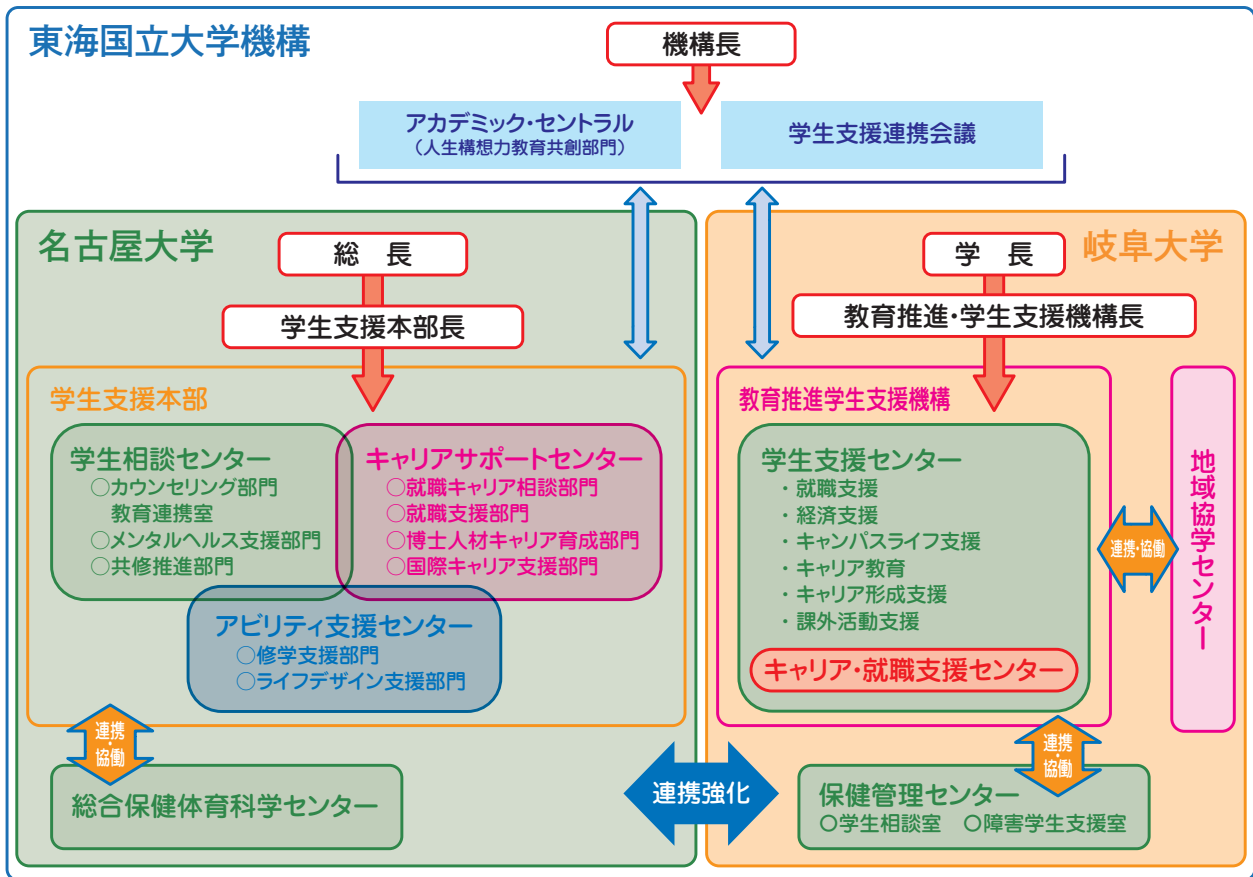
国立大学法人法第22条には、国立大学法人の業務として「学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと」が二番目にあげられています。本学でも、以前より学生に対する相談や援助への取組は積極的に行っており、学生支援センターの前身に当たる、2001年設立の学生相談総合センターでは、学生相談部門、メンタルヘルス部門、就職相談部門、障害学生支援室が連携しながら学生対応ならびに支援に当たってまいりました。しかし、新型コロナウイルスの出現以前から、来談学生が増加するとともに、相談内容も多様化する傾向があったこと、また、留学生の増加に伴い、日本人、留学生を問わず、適切な支援を提供する必要性が高まったことなどから、部門間及び留学生受入部門との連携を強化する必要性が認識されるようになり、それを受けて設置されたのが、学生相談・共修推進室、キャリアサポート室、障害学生支援室の3つの室から構成される学生支援センターです。学生支援センターをさらに学生支援本部に改組するに当たり、学生相談・共修推進室は学生相談センターに、キャリアサポート室はキャリアサポートセンターに、そして、障害学生支援室はアビリティ支援センターに変わりましたが、「室」から「センター」への名称変更は単なる看板の架け替えではありません。学生支援本部では、各センターがセンター長の指揮の下、より自律的、機動的に現実のニーズに対応することができるようになる一方で、名古屋大学副総長が兼務する本部長が現場を代表する副本部長と共に3つのセンターを統括することによって、入学から卒業まで一貫して学生を支援することが可能となりました。こうして生まれた学生支援体制は、20年来の歩みの一つの到達点とすることができます。なお、障害学生支援室は、障害に配慮するだけでなく、多様な学生が個性を發揮し、生涯にわたるウェルビーイングの向上につながる支援を実現するという意味合いから、「アビリティ支援」センターに改称しました。

学生支援センターが学生支援本部に改組されて、学生支援の強固な足場ができたとはいっても、学生支援本部だけで、学生が必要とする支援のすべてを行えるわけではありません。学生が所属しているのはそれぞれの部局であり、学生の状況を直接知り得るのは部局の教員です。悩みや不安を抱えた学生が直接学生支援本部に相談に来る場合もあるでしょうし、また、学生支援本部では、相談に来ない学生の中から実際には悩みや不安を抱えている学生を見つけるための取組も行っていますが、部局及び部局の教員の協力なしで、学生の実情を十分に把握し、一次支援を強化することは困難です。実際、昨年度後半には、部局に全学生の面談を依頼し、そのことによって、より丁寧な支援を行うことが可能となりました。他方、学生が悩みや不安なく勉学や研究に取り組めることは学習や研究の成果につながるわけですから、学生の学びの場としての大学にとって、学生支援の充実が教育の高度化や研究の振興と並ぶ重要課題であることを、大学としてあらためて認識することも肝要です。

このように、学生支援は、それをもっぱら担当する組織だけが担うのではなく、全学的な方針の下、学生支援組織と部局が手を携えつつ大学全体で取り組んでいくものでなければなりません。大学には様々な組織がありますが、その中でも重要課題を担う組織は、「本部」なり「機構」なり、それに相応しい名称を持っています。ですから、昨年度の改組によって、学生支援を担う組織の名称に「本部」が入ったことは、本学における学生支援の充実、強化に向けた大きな一歩であることは間違いありません。もちろん、時代の流れとともに、必要な学生支援の中身も変わっていきますし、新型コロナウイルス感染症の拡大が、大学における学生支援のあり方に大きな課題を突きつけたことも確かです。また、新型コロナウイルス感染症は、直接的な影響だけでなく、オンラインが当たり前になるなど、学生を取り巻く環境にも大きな変容をもたらしました。新型コロナウイルス感染症が収束しても、すべてがコロナ以前に戻るわけではなく、ポスト・コロナに向けては、そうした変容を踏まえた学生支援のあり方を模索していかなければなりません。

本プロフィールでは、初年度となる令和3年度の学生支援本部の活動状況を紹介しています。学生支援本部では、新型コロナウイルス感染症への対応の経験も踏まえて、学生支援の一層の充実を図ってまいりますので、関係者の皆様方におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

組織図



沿革

- 1956年 学生部により、週2時間の学生相談が開始される。
- 1964年 学生相談室が設置される(兼任相談員1名)。
- 1970年 学生相談室に助手1名が着任。
- 1971年 保健管理センターが設置され、講師1名(精神科医)が着任。
- 1985年 学生相談室の相談員が2名体制になる。
- 1993年 留学生センター内に指導相談部門が設置される。
- 1997年 学務部厚生課内にて週2回の就職相談が開始される。
- [2000年 文科省「大学における学生生活の充実方策について -学生の立場に立った大学づくりを目指して-」報告。]
- 2001年 学生相談、メンタルヘルス支援、就職相談を統合し、学生相談総合センターが設置される。
- 2004年 就職支援室が設置される。
- 2006年 工学部7号館に本部2号館プレハブ棟より移転。
- [2007年 JASSO(学生支援機構)「大学における学生相談体制の充実方策について」報告。]
- 2010年 障害学生支援室が設置される(職員1名)。
- [2013年 障害者差別解消法成立。]
- 2013年 障害学生支援室に特任講師1名が着任。
- 2013年 10月、国際教育交流センターアドバイジング部門が設置される。
- 2018年 就職支援室からキャリア支援室に名称変更。
- 2019年 学生相談総合センター(教育研究組織)から学生支援センター(運営支援組織)に改組。
- 2020年 工学部7号館から学生支援棟(旧職員クラブ)へ移転。
- 2021年 4月、学生支援センターから学生支援本部(運営支援組織)に改組。
- 2022年 4月、国際機構の国際本部への改組により、国際教育交流センターアドバイジング部門は、グローバル・エンゲージメントセンター支援チームに名称変更。

# センター紹介

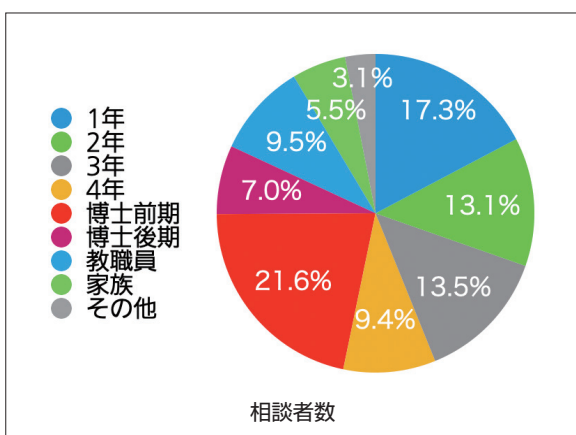
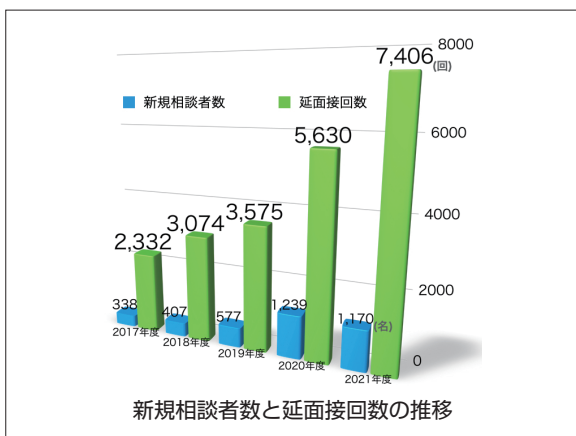
---

## カウンセリング部門 Counseling Division

- ・ カウンセリング部門は、臨床心理士等による学業・進路・対人関係といった学生生活上の悩みや課題について援助・助言を行います。
- ・ 全学学生のこころの健康や心理的成長について縦断調査を実施し、学生支援に活用しています。
- ・ こころの緊急支援を各部門や部局と連携して行います。
- ・ 個別相談以外にも、各種グループ活動（ゲームの会、読書の会、留年生の会）を実施し、話すことが苦手な学生に対する支援を提供します。
- ・ 学生相談サポーターの活動を指導しています。
- ・ 大学院生や新入生を対象とした心理教育を行っています。
- ・ 教職員を対象としたFDを実施しています。

### 【相談例】

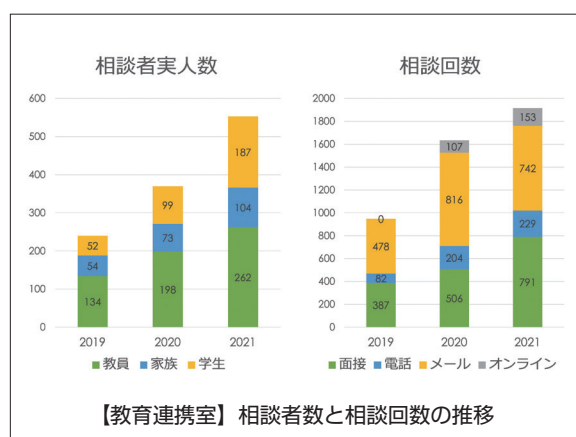
研究室における対人関係の悩み、友達関係や家族関係の悩み、講義や研究に対する無気力感、不登校や休退学、留年、進路変更、将来の不安、性のこと、しつこい勧誘、など。



## 教育連携室

### Faculty Consultation Office

- ・ 教育連携室は、2名の臨床心理士が教職員・保護者（家族）専用の窓口として、学生にまつわる問題解決や学生の成長・発達の援助・助言を行っています。
- ・ 援助に際しては関係者（教職員・家族・各部局・内外の支援者・学生支援本部の各センター）との連携・協働を重視し、そのための支援も行っています。
- ・ 心理教育・グループ活動  
「いこまいセミナー」「ウェルネスセミナー」「新入生特別講義」など学生・教職員を対象とした各種心理教育プログラムと、「いこまいプロジェクト」など学生の健康と成長へのチャレンジを支える活動を実施しています。
- ・ FD研修・コンサルテーション  
部局や研究室を対象とした各種FD研修・コンサルテーションを実施しています。
- ・ 全学学生のこころの健康や心理的成長について縦断調査を実施し、学生支援に活用しています。
- ・ こころの緊急支援を各部門や部局と連携して行います。
- ・ 相談例  
学生のメンタルヘルス、不登校、適応、障害、無気力、休退学、留年、進路、指導、大学・研究室における人間関係、チーム・組織活性化、スキルアップに関してなど、学生にまつわることは何でも相談を受け付けています。



【教育連携室】相談者数と相談回数の推移

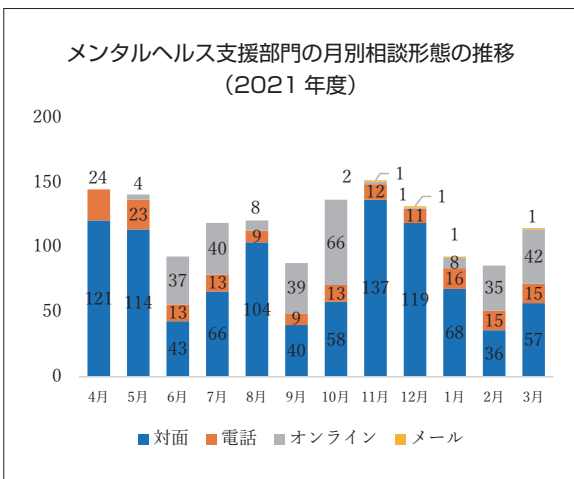
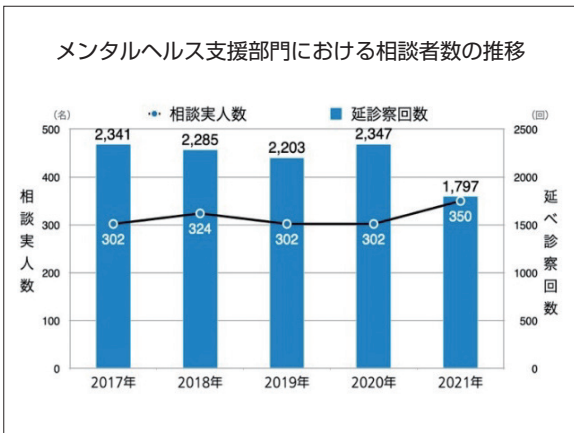
学生相談センター Student Counseling Center

メンタルヘルス支援部門  
Mental Health Division

- ・メンタルヘルス支援部門は、3名の精神科医が学生の診察、精神療法などを担当し、薬剤の種類は限られますが簡単な処方（保健管理室）も行っています。
- ・保健管理室が行う健康診断を用いたスクリーニングによる早期介入、他の相談部門や外部医療機関との連携によるメンタル相談も行っています。
- ・コレクション自慢の会  
それぞれの趣味やコレクションについて自由に語り合うことを通じ、参加者のみなさんの交流を深めていくことを目的とした会を月に一度の割合で開いています。

【相談例】

抑うつ・不安といった症状から、大学へいけない、対人関係の悩みなど幅広いです。学生の他にも、学生の指導にあたる教員および保護者の対応方法についての相談も行っています。



共修推進部門

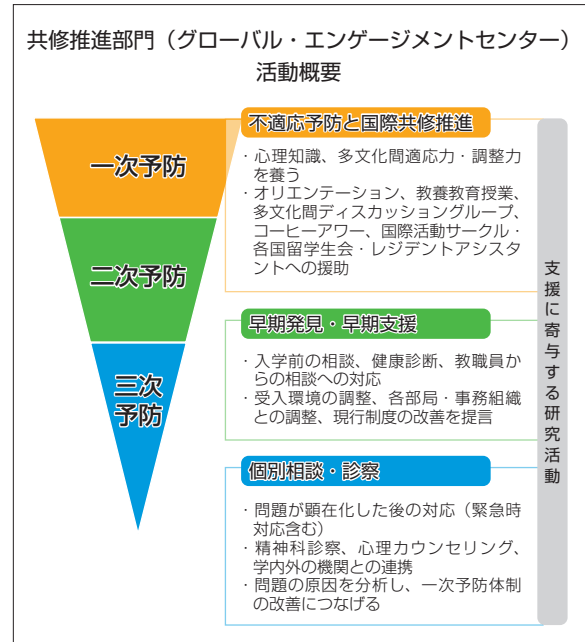
Inclusive Learning Division

- ・共修推進部門は、国際教育交流センターアドバイジング部門は2022年4月から「グローバル・エンゲージメントセンター支援チーム」に改組され専任教員4名が兼務しており、留学生などの国際学生や日本人学生等、多様な文化背景を持つ学生たちと協力しながら、多文化共修・協働環境の整備にあたっています。
- ・精神科医による診察や治療、心理士によるカウンセリング、国際教育アドバイザーによる相談、学生組織との連携により、国際学生の新しい環境への適応を支援しています。

【相談例】

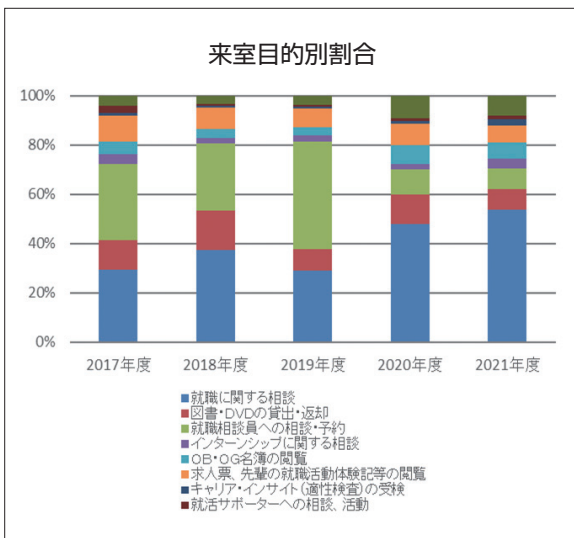
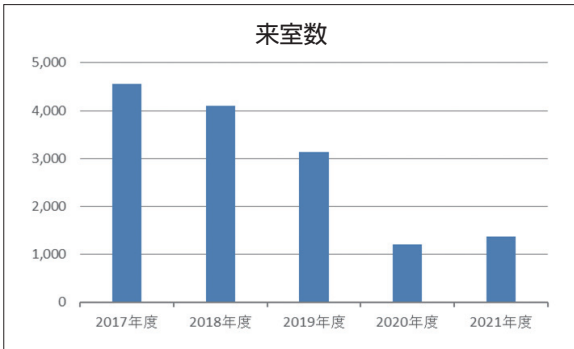
精神健康に心配がある、新しい環境に慣れるのが難しい、人間関係に悩んでいる、日本の福祉制度を利用したい、学内外で様々な人々と知り合い交流したいなど。日本語と英語で相談に対応しています。

【活動概要図】



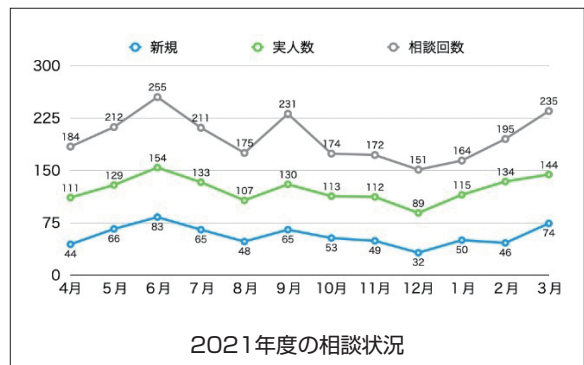
就職支援部門  
Career Support Division

- ・就職活動やインターンシップ、進学に関する相談および情報提供を行います。将来を考えるきっかけを提供すべく低学年から参加できる全学年対象のキャリア支援企画、具体的な就職活動期を支援する就職活動支援企画など時期に適した多彩なイベントを開催しています。
- ・情報提供では、就職資料コーナーを設け、各種ガイドブック、先輩たちの就職活動を記載した就職活動体験記、OB・OG名簿の閲覧、職業適性診断システム（キャリアインサイト）等、就活する学生が自由に活用できるようにしています。また、求人票の閲覧・検索、イベント予約、個別相談予約、進路決定報告の入力、キャリアサポートセンターの来訪企業の確認等ができるシステムを構築し、学生の利便性を図る支援を行っています。



就職キャリア相談部門  
Career Counseling Division

- ・3名のキャリアカウンセラーがインターンシップや就職活動上での面接対策やエントリーシートの書き方、企業選択、就職活動の方策から進路に関することまで年間を通じて丁寧に対応しています。また、進学や就職、大学を卒業あるいは修了後の人生に関する悩みや不安、課題などについて、継続的なカウンセリングを行っています。カウンセリングを通じて学生本人が今自分が何をすべきかなど見つめ直す、または新たな発見など社会へ育つ支援を行っています。
- ・学内インターンシップ（ワークエクスパリエンス）の実施や学外就労支援専門機関と連携し、障害圏域の学生に就業経験を通じて自己理解の醸成や就業への橋渡しも積極的に実施しています。
- ・個別相談以外に、就活サロンやステップバイステップなど、集団相談会やグループワークを開催し、時期や学生の特性に合わせた進路獲得支援を展開しています。
- ・同時に様々な学部・研究科等とガイダンス講義や就職支援講座開催で協同しており、このネットワークを通じて教職員から支援が必要な学生の紹介の輪がひろがっています。
- ・進路決定した学生による就活生支援グループ「就活サポーター」の活動支援・指導を行っています。

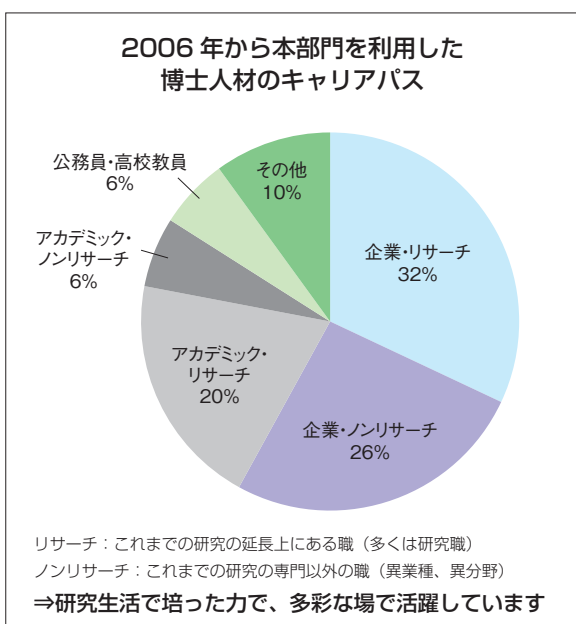
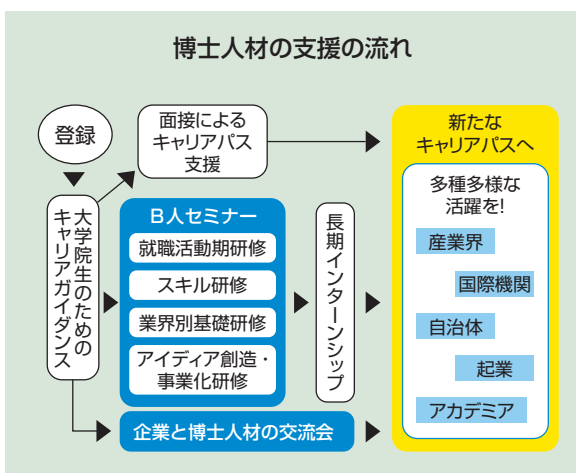




## キャリアサポートセンター Career Support Center

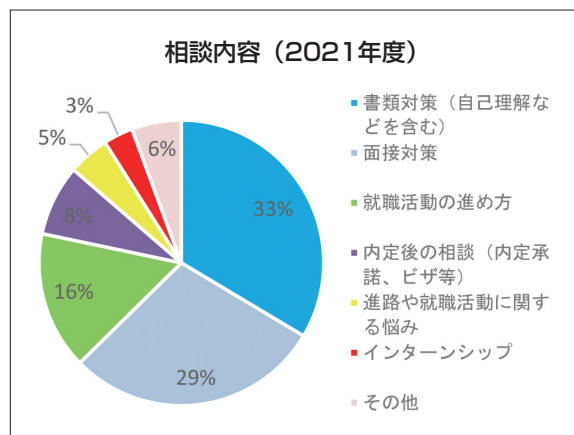
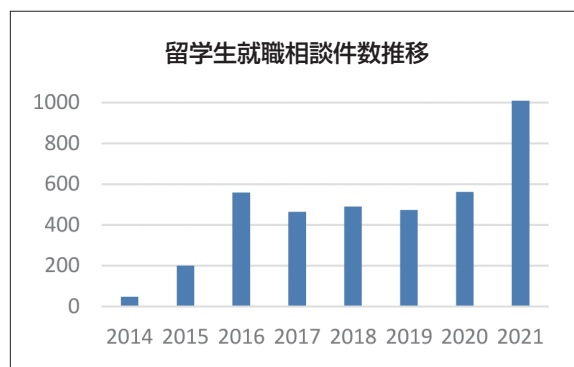
### 博士人材キャリア育成部門 Doctoral Student Division

- ・博士課程教育推進機構 キャリア教育室と連動しています。
- ・博士後期課程学生やポスドク（博士人材）や博士後期課程に進学希望の学生を中心としたキャリアパス支援をしています。
- ・キャリアガイダンス、個人面談を中心に、キャリア形成の講義、セミナー、博士のインターンシップ、企業との出会いの場である「企業と博士人材の交流会」を開催しています。
- ・専門性はもちろん、多様な能力を培ってきたのが博士人材です。アカデミックポジション以外にも、多彩な業界や職で活躍するのを支援しています。
- ・相談希望者は（HP=<https://dec.nagoya-u.ac.jp/career/>）よりオンライン登録をしてください。



### 国際キャリア支援部門 International Student Division

- ・外国人留学生に向けた個別就職相談、キャリアランチ交流会（グループカウンセリング）を行っています。卒業後の進路相談、とくに日本企業への就職を目指す皆さんが直面する不安や疑問に、丁寧にお答えします。書類添削、面接練習など具体的な就職活動の支援も行っております。英語での相談も可能です。
- ・日本で働くことを希望する外国人留学生に向けて、日本固有の就職活動のしくみや日本の企業文化、日本のワークルールを学ぶためのキャリア教育を提供しています。
- ・外国人留学生を採用したい企業を集めた合同企業説明会やインターンシップなどの機会も提供しています。
- ・留学生のための就職ガイダンスをご希望の方は、キャリアサポートセンターへお問い合わせください。



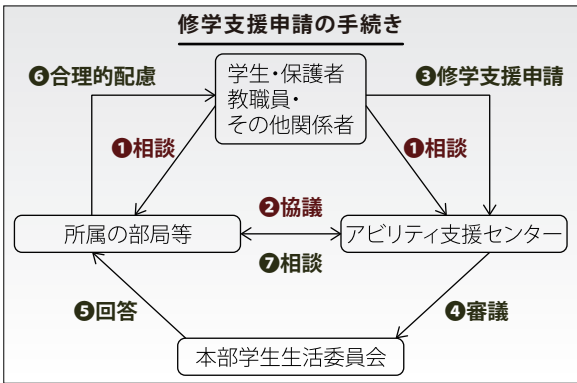
### 修学支援部門

Academic Learning Division

- ・アビリティ支援センター修学支援部門では相談員（准教授、障害者支援専門職、障害学生支援コーディネーター）3名が、障害のある学生と所属部局等を対象に、障害の有無に関わらず、その能力を適切に発揮できるような修学支援にあたっています。
- ・活動の1つは、どの学生にとっても使いやすいキャンパス作りのためのユニバーサルデザイン化を推進することです。もう1つは、それぞれの学生の個別の困難に応じた修学上の調整である、合理的配慮の提供に関する支援を行うことです。
- ・修学支援を行う学生サポーターを育成するために、障害学生支援レクチャーシリーズ、修学支援スキル講習会、障害理解を深める映画鑑賞会などを行っています。
- ・また、各部局における障害学生への対応や関わり方についての相談、助言なども行っています。
- ・学生に対する啓蒙として、学生対象セミナーも毎年開催しています。

**【相談例】**

座席指定、試験時間延長、補助器具使用、資料作成・配布、時間管理や課題の管理、研究上の指導・助言などに関する配慮（調整）、施設改修に伴う助言、など



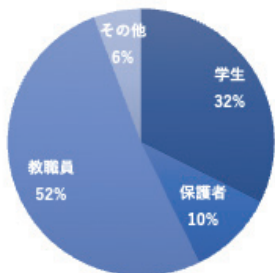
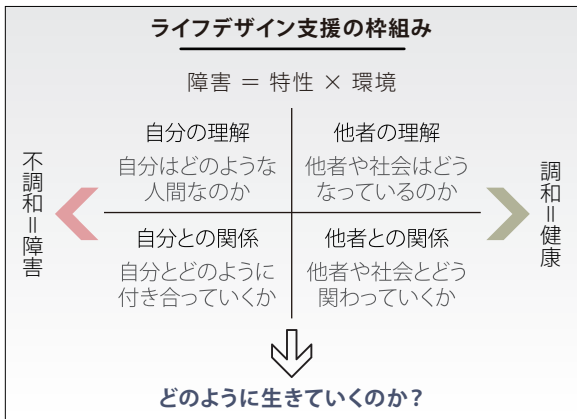
### ライフデザイン支援部門

Life Design Division

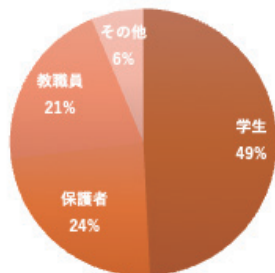
- ・アビリティ支援センターライフデザイン支援部門は、相談員（准教授、障害者支援専門職、障害学生支援コーディネーター）3名が、障害のある学生の生活に関する問題の支援を行なう部門です。障害のある学生が自分の特性や困難をどのように理解し、どのようにその改善を図るか、あるいはどのような環境を好ましく思うか、それらを踏まえてどのようにして社会の中で生きていくか、といったライフデザインの支援を行います。障害に由来する課題と青年期としての課題との重なり合う状態を、学生個人個人が自分なりに納得できる形でこなしていくことを支えます。
- ・現在行っている活動の1つは、大学生としての学習の仕方に参加メンバーが持ち寄り、共有する、「大人の勉強benkyo会」です。週1回、4、5人の学生が同じ空間で自習し、勉強の仕方について、各自の抱えるテーマについて情報交換をしています。今後、日常生活における困難や生活能力を高めるための工夫を共有する場、自分と周囲の環境、両者の関係性について学ぶ場などを作っていきたいと思っています。加えて、従来どおりの個別の相談による支援も提供されます。
- ・ライフデザインについての情報発信も行う予定です。たとえばしばしば問題となるスケジュール管理や整理整頓の方法やノウハウ、小技、あるいは周囲の人との意図や前提の食い違いの緩和の仕方といった情報を、誰にとっても役立つ形で発信する予定です。

**【相談例】**

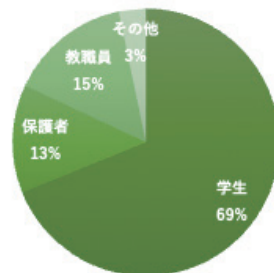
親子関係、障害特性や性格についての理解や対応、自分に障害があるかどうか、どんな仕事に向いているか、などについて（それぞれ関係他部門との連携をしています）



修学支援相談割合(173人)



修学・ライフ相談割合(63人)



ライフデザイン相談割合(61人)

## ピアサポート Peer Support

### 1. 学生相談サポーター



学生相談サポーターの活動は、2004年にスタートし、今年で18年目を迎えました。サポーター数はアドバイザー2名、サポーター22名で、教育発達科学研究科の大学院生を中心に活動しました。例年は、4月の新入生サポートや水曜日午後の中央図書館学生相談ブースでの相談活動、紙媒体による相談である「ピアサポスト」と「つぶやきノート」への回答作成を柱として活動してきましたが、2020年度からコロナウイルスの流行によって大学への登校や中央図書館の利用が制限されるなど、従来の活動ができない状況に陥りました。2021年度は徐々に活動を再開させました。また、理学共用館に活動拠点を移し、従来の活動に加えてオンラインによるミーティングを行いました。とくに2021年度は、今後のオンラインを活動した相談方法について勉強会や研修会を開くなど新しい活動の形を模索しました。また、3月には、全国のサポーターが集う「ぴあのわ（三重大学主催）」に参加し、他大学のピアサポーターたちと交流を深めました。

### 2. 就職活動サポーター



「就活サポーター」は2002年度から活動を続け、進路が決まった卒業期の学生たちがこれから就活に入る学生（プレーヤー）を支援しています。主な活動は、就活生に自分たちの体験を伝えながら相談に対応すること。そのために相談対応やサポーターとしての倫理について研修を通じて学び、サポーターとプレーヤーの双方が安心して対面できる体制を整えています。その他にも自分たちの経験を生かしたグループワーク活動も提供しています。就活サポーターは進路を決定してきたこれまでの活動を振り返り、社会に出て行く自覚を醸成する活動でもあります。設立以来の多くの卒業生との交流や、卒業生自身が互いを刺激しながらキャリアについて考えるネットワークが育っています。今年度もキャリアサポートセンターでの対面での相談業務が困難となりましたが、oviceによるバーチャルサポールームを作り、オンラインでの活動をサポーター20名で運営しました。またキャリアの講義やガイダンスでオンラインで後輩の質問に答える「教えて先輩」活動も好評でした。

### 3. アビリティ学生支援サポーター



学生サポーターの集まり「air（あいる）」は2010年度から活動しており、2021年度は女子8名、男子4名の構成となっています。アビリティ支援センターを中心に活動していますが、実際の活動場所はキャンパス内に広がっています。

主な活動の1つは、障害のある学生の修学支援の補助ですが、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大によって思うような活動ができませんでした。それでも、オンラインでの研修や実習を企画し、学生対象セミナーでは学生サポーターが企画を立て、講師に連絡をして、セミナーを開催しました。また、授業の配信動画に字幕をつける作業も行い、新たな活動の形が現れてきました。

airのメンバーはサークルのように、自主的に活動の方向性や内容をミーティングで決め、アビリティ支援センターと協力しながら活動に当たってくれています。最近では、SNSでの意見交換、ミーティング、ニュースレターの発行、手話の勉強会などを熱心に行っています。



# 2021年度 学生支援活動報告

---

## はじめに

### 2021年度コロナ禍における学生支援活動

新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下コロナ禍）の2年目となった2021年度も、2020年度から引き続き、大規模災害時と同様の学生支援活動を展開した。

特に、2021年度は秋から冬にかけて学生たちの抑うつ傾向が高まり、緊急対応事例が増加した。相談件数は過去に例をみないほど増加を続け、私たち専門家の緊張感も高まっていった。10月19日、「メンタルヘルス緊急事態宣言」として部局長に発信し、11月からは部局の教職員と連携しながら全学生面接の実施に踏み切った。その効果は顕著であり、12月からはキャンパスが落ち着きを取り戻していった。危機的状況をなんとか乗り越えた2022年4月、参加人数を制限した感染対策のもと無事に入学式が挙行された。杉山直総長は祝辞の中で学生支援本部に言及され、困難に対処できなかった時の早期相談の重要性を発信された。

2021年度は、2020年度から引き続き食料支援も行った。アルバイトが少しずつ再開されていったものの、経済的困窮を抱えた学生にはあまりにも厳しいコロナ禍となっている。食料配布支援業務を臨時的に実施した。

いつ終わるのか分からないコロナ禍ではあるが、新たに入学する名大生と在学中の名大生すべての学生にとって、どのような状況であっても、大学生活を通して彼らが人として成長する、その成長過程を支える学生支援本部であり、全学生一人ひとりの個性に寄り添うことのできる学生支援でありたいという願いは変わらない。

## 大学の活動方針年表

社会のコロナ関連記事 (<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/chronology/>)・学生支援本部活動

日付	警戒レベル	課外活動	教育	
～4月1日	B	レベル2	レベル1	現在の警戒カテゴリー【B】
4月2日				政府の分科会見解「第4波入りつつある」
4月12日				高齢者へのコロナワクチン接種始まる
4月16日				春学期アンケートの回収終了
				キャンパスツアーの開催
5月1日				バーチャルスペース (Ovice) の本格導入
5月8日				学生へ困窮状況アンケートを実施 (twitter)
5月26日				アビリティ支援センター 障害理解を深める映画鑑賞会 オンライン同時開催
5月17日・21日・24日・28日				食料支援開催 計4日間
6月2日～9月末				前期FD「新入生を中心とした心の健康アンケート結果の報告～部局連携のお願い～」開催 (部局別)
6月4日				学生へ支援物資アンケートを実施 (twitter)
6月28日				HPに「総長からのメッセージ～名古屋大学の学生、教職員の皆さんへ ワクチン接種についてのお願い。」が掲載
7月12日				新型コロナワクチン 大学拠点接種の開始
7月19日～21日				食料支援開催 計3日間
7月23日				「全国で第5波に入ってきている」新型コロナ 感染急拡大
7月23日～8月8日				東京2020オリンピック開幕 無観客で
8月5日				世界全体で2億人超え 新型コロナ感染確認 「デルタ株」広がる
8月20日				「感染状況制御不能 災害レベルの猛威」都モニタリング会議
8月24日～9月5日				東京2020パラリンピック開幕
8月26日				「抗体カクテル」外来診療でも投与へ
9月1日	B	レベル3	レベル1	現在の警戒カテゴリー【B】
9月8日				緊急事態宣言 解除の判断「新指標」
9月10日				FD「論文執筆のつまづきへの取り組み」開催
9月13日				ワクチン2回接種 人口の50%超に 接種開始から7か月 政府公表
9月30日				緊急事態宣言すべて解除
10月4日				ワクチン2回目接種終了 全人口の60%超に
10月16日				ホームカミングデイ企画として、コロナ禍における在学生・卒業生・保護者の世代内・世代間 交流の試み「親の本音、(大きくなった)子どもの本音、にじみ出る本音をどう伝えよう～たとえば SNS ツールを使って～」開催
10月19日				東海国立大学機構 警戒カテゴリー見直し
10月19日	A	レベル1	レベル1	現在の警戒カテゴリー【A】
10月29日				保護者宛てに各相談窓口ご案内の郵送
10月29日				動画「総長からのメッセージ～無理せず焦らず、自分のペースで一歩ずつ前へ～」配信
10月31日				新型コロナ ワクチン接種回数 世界で70億回に達する
11月1日				東京都 新型コロナ 新規感染確認が1年5か月ぶりに1桁に
11月～1月				部局へ全員面談実施依頼
11月12日				FD「秋学期心の健康について緊急現状報告と学生状況把握のお願い～個別面接マニュアル～」開催
11月19日				秋学期アンケートの回収終了
11月27日				新変異ウイルス「オミクロン株」懸念される変異株に指定 WHO
11月30日				政府 オミクロン株対応 きょうから外国人の新規入国 原則停止
12月10日				オミクロン株 “重症化 入院リスクはデルタ株より低い傾向” WHO
12月20日				アプリでコロナワクチン接種証明始まる
12月25日				「抗体カクテル療法」オミクロン株に効果期待できず 投与推奨せず
1月19日	B	レベル1		現在の警戒カテゴリー【B】
1月29日				コロナワクチン 世界で接種100億回に 先進国と途上国で格差も
2月12日				オミクロン株 水際対策 首相“緩和の方向で検討していきたい”
2月17日				コロナ 抗体持つ人は各地で約95% 免疫が十分かは不明 厚労省
2月17日				東京都 「BA.2」都内で市中感染とみられる事例 初確認と発表
2月17日				学生の自死防止策 春休みにおける学生支援の依頼
2月24日				新型コロナ 病床利用率 全国22都府県で50%超に
2月27日				国内の主流は「BA.1.1」新型コロナ オミクロン株
3月1日				水際対策緩和 観光除く外国人の新規入国再開
3月7日				「まん延防止」18都道府県で延長 13県で解除
3月10日～31日				アプリを使った相談・予約システム「タスケブネ」テスト運用開始
3月14日				新型コロナ ワクチン3回目接種を受けた人 全人口の30%超に
3月22日				まん延防止等重点措置 すべての地域で解除 新型コロナ
3月22日	A	レベル1	レベル1	現在の警戒カテゴリー【A】
3月30日				FD「コロナ禍を踏まえた学生の変化」開催

□ : 活動方針 □ : 学生支援本部活動

## 大学の活動方針年表(指標)

### 警戒カテゴリー

カテゴリー	定義
A (要注意)	感染の危険性が少ない場合。
B (高度警戒)	感染の危険性はあるものの、国や自治体からの休校要請がない場合。単発の感染者の発生などによる建物や部局レベルの一時閉鎖などの場合。(状況により、レベルCにすることもあり)
C (緊急事態)	①国の緊急事態宣言などにより、国や自治体による一斉休校要請のある場合、 ②感染者の急激な増加等により緊急に構成員の安全確保と感染拡大防止措置を講じる必要がある場合、 ③キャンパス内の複数部局で感染者の発生もしくはクラスター感染の発生がある場合、など。

### 課外活動

レベル	活動状態	備考
0	通常通り	
1	感染防止に留意の上、活動は可	具体的な感染防止策は、大学と協議の上、決定する。
2	感染防止、時短等に最大限留意の上、一部の活動は可	具体的な活動範囲は、大学と協議の上、決定する
3	全面活動禁止	

### 教育(講義・演習と実験・実習)

[4月1日~10月18日]

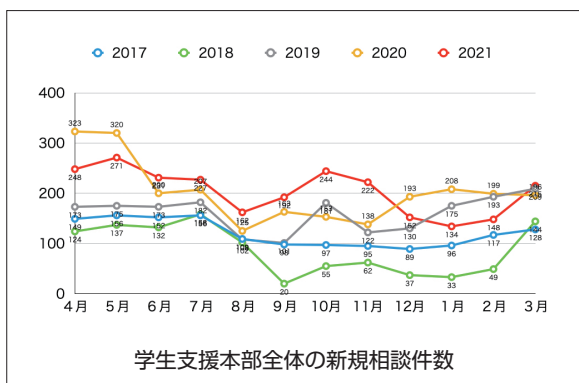
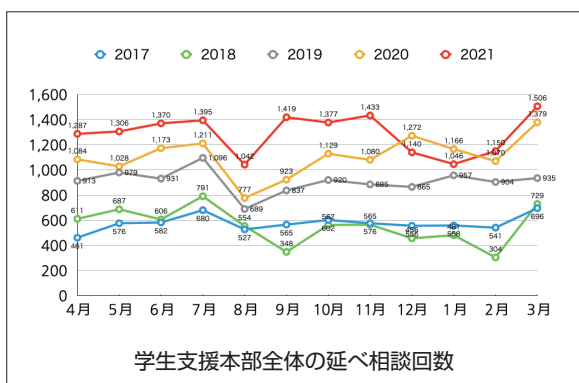
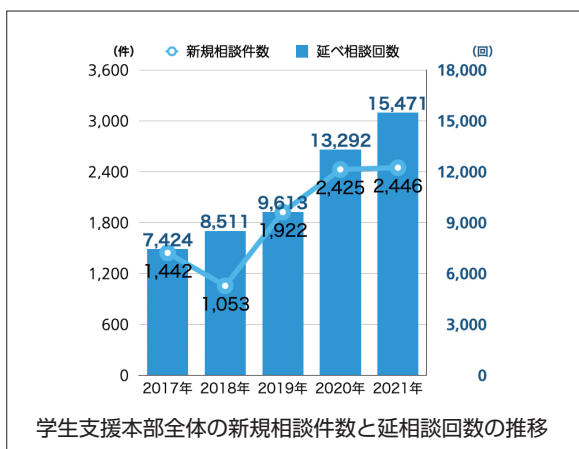
レベル	活動状態	備考
0	通常通り	
1	感染防止措置の上、 講義・演習の実施(対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / 実験・実習の実施(対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / ICTを使った遠隔授業の積極的併用 / アクセスポイント提供	
2	感染防止措置の上、 講義の実施(原則としてICTを使った遠隔授業で実施。例外として対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / 実験・実習の実施(対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / アクセスポイント提供	
3	感染防止措置の上、 講義の実施(対面授業は行わず、ICTを使った遠隔授業のみ実施) / 演習の実施(原則としてICTを使った遠隔授業で実施。例外として少人数や教育効果の観点が必要な場合は対面授業実施可) / 実験・実習の実施(対面授業を行う場合は人数をレベル2以上に限定の上で実施) / アクセスポイント提供	
4	感染防止措置の上、 講義の実施(対面授業は行わず、ICTを使った遠隔授業のみ実施) / 演習の実施(対面授業は行わず、ICTを使った遠隔授業のみ実施) / 実験・実習の実施(できるだけ対面授業は実施せず他の方法によることができない場合のみ対面実施可) / アクセスポイント提供	
5	ICTを使った遠隔授業のみ実施 / アクセスポイント閉鎖	受講できない学生には教育上の配慮を実施

[10月19日~3月31日]

レベル	活動状態	備考
0	通常通り	
1	感染防止措置の上、 講義・演習の実施(対面授業主体で実施) / 実験・実習の実施(対面授業主体で実施) / アクセスポイント提供	
2	感染防止措置の上、 講義・演習の実施(対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / 実験・実習の実施(対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / ICTを使った遠隔授業の積極的併用 / アクセスポイント提供	
3	感染防止措置の上、 講義の実施(原則としてICTを使った遠隔授業で実施) / 実験・演習の実施(対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / アクセスポイント提供	
4	感染防止措置の上、 講義の実施(対面授業は行わず、ICTを使った遠隔授業のみ実施) / 演習の実施(原則としてICTを使った遠隔授業で実施。例外として少人数や教育効果の観点が必要な場合は対面授業実施可) / 実験・実習の実施(対面授業を行う場合は人数をレベル2以上に限定の上で実施) / アクセスポイント提供	
5	感染防止措置の上、 講義の実施(対面授業は行わず、ICTを使った遠隔授業のみ実施) / 演習の実施(対面授業は行わず、ICTを使った遠隔授業のみ実施) / 実験・実習の実施(できるだけ対面授業は実施せず他の方法によることができない場合のみ対面実施可) / アクセスポイント提供	
6	ICTを使った遠隔授業のみ実施 / アクセスポイント閉鎖	受講できない学生には教育上の配慮を実施

# センター全体の個別相談実績

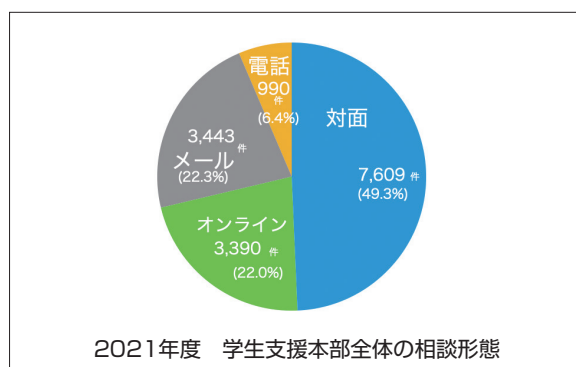
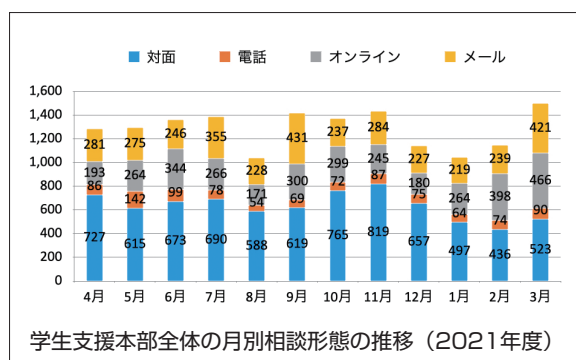
## 1. 経年変化にみられる 2021 年度における特徴



きています。移転前と比較すると、延べ相談回数は 60.9% 増加となっている。

## 2. 2021 年度における相談形態

2020 年度から、対面相談に加えて、電話、オンライン、メールでも対応することとした。対面相談が全体の約半数を占め、ビデオ会議システムを利用したオンライン相談が 2 割強となった。学生たちが、顔のみ見える相談環境を求めていることが推察される。



2021 年度の新規相談件数は 2,446 件、延べ相談回数は 15,471 回であった。新規相談件数は学生数 15,771 名の 15.5% に相当した（この新規相談件数には 2020 年度からの継続相談者が含まれていないため、利用者実数は 15.5% 以上となる）。延べ相談回数は、初めて毎月 1,000 回を越えていた。

2020 年度と比べると、2021 年度の新規相談件数は、ほぼ同数であったのに対して、延べ相談回数は 16% 増であった。2020 年度に移転し、相談室数と場所が改善され、カウンセリング部門と就職キャリア相談部門が同じ建物内で 14 の相談室を使用しながら相談に応じることがで



全学学生を対象とした活動

部局との連携による全学生面接

1. メンタルヘルス緊急事態宣言

秋に入り、緊急事例がいきなり増加した。自傷や他害といった生命の危機に直結する相談や、関係者からの安否未確認の相談など、ほぼ毎日、新しい緊急事例への対応に追われるようになった。また月別相談件数も過去最高値を更新し、10月に実施した心のアンケート結果からも、抑うつや不安の高まりが認められた。なにより学生相談を訪れる学生たちの不安が、これまでに私たちの感じたことがないほどの高い印象を抱いていた。

この状況を解決するために、10月18日、執行部に対して、部局と連携をして学生全員との面談を実施し、学生個々の状況把握が必要であることを説明し、翌日、総長から各部局に対して実施依頼がなされた。また、学部生の全保護者に対して、相談窓口の案内を郵送し、保護者が学生の変化を早期に発見し相談していただくように依頼した。

2. 部局との連携

10月26日から11月9日にかけて、13の研究科と1研究所の部局長を訪問し、全学生面接の目的を説明した。教職員は専門家ではないため、一人ひとりの教職員が学生の心理状態を気にかけていることを学生に直接伝えていただくことが目的であり、なんらかのスクリーニングを行うことが目的ではないことを説明した。また、日頃から学生の状況把握を行なっている部局においては、学生対応に困った場合にはいつでもご相談いただくように依頼した。

3. 全学生面接の実施にあたって

面接に際してのガイドラインを提示し、教職員が面接しやすいように工夫を行った。面接終了後は、学生の様子について回答いただくように依頼した。

4. 全学生面接の効果

秋にかけて増加の一途をたどっていた緊急事例数、ならびに、延べ相談回数は、全学生面接が進行するにつれて、驚くべき減少を示した。相談を訪れる学生たちの不安も急激に低下し、キャンパス全体が落ち着きを取り戻していったように感じられた。また、学生相談を新たに申し込んだ学生の動機の多くが、全学生面接で教職員から専門家に相談するよう受けたアドバイスが理由となっていた。

教職員の方々のご尽力に心から感謝申し上げるとともに、教職員が一体となって発揮する学生支援力は名古屋大学の財産であることを再認識した。

**保護者の方も相談できます**

名古屋大学学生支援本部では、ご家族からのご相談にも対応しています。少しでもお子さんのことでお悩みのことがございましたらぜひご連絡ください。

- ・ 悩みのこと
- ・ 連絡のこと
- ・ 学生生活のこと
- ・ 友人関係のこと など

学生支援本部における相談人数と相談回数

学生支援本部では、臨床心理士・精神科医・キャリアカウンセラー等支援専門員が学生の状況に応じて、個別相談等を中心に丁寧な支援を展開しています。

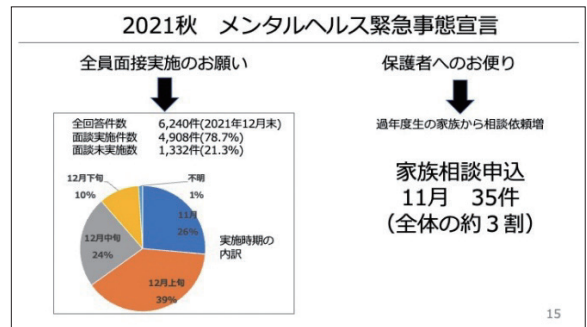
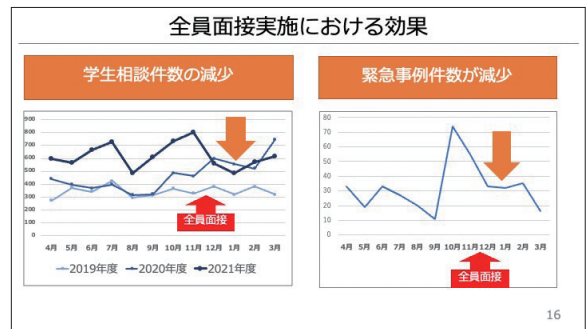
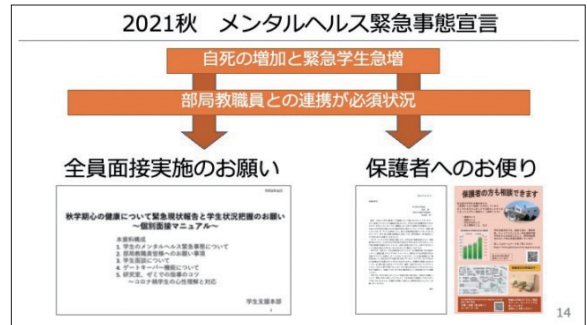
詳しくはホームページをご覧ください  
<http://www.gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp>

名大生の約2割が利用しています

**保護者の利用増加中!**

相談は対面だけでなく電話やメール、オンラインでも承っております。事前にご予約ください。

soudan@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp  
 052-789-5809  
 月曜～金曜（祝日除く）  
 10:00～17:00



## 全学学生を対象とした活動

### 卒業生を中心とした寄付による学生への食料支援

2020年度から実施した食料支援は2年目を迎えた。2021年度も緊急事態宣言の発出中において、食料支援を行った。2021年度は、春のイベントとして2回、年間計16回にわたり延べ1,889名の学生に配布した。



### 新入生特別講義 大学生活入門2021

去年は春学期に対面授業を実施するのが困難であったが、2021年は対面授業が再開し、大学生活入門を春学期の第一週目を実施することができた。これは、緊急事態における心理教育とともにクラス交流を活性化させることを目的としたクラス別の特別ガイダンスである。オ

ンラインでの参加も可とし、部局の担任教員も参加し、学生から担任への学部授業についての質疑応答などの時間も設けて交流を深めた。

名大生としての帰属意識が高まりクラスでの友人関係構築のきっかけになったものと思われる。



## 全学学生を対象とした活動

### 学生相互交流支援

#### 1. クラス長会

春学期・秋学期にそれぞれ実施している心の健康アンケートの結果から、コロナウイルス流行による大学生活や対人関係上の変化が、学生のメンタルヘルスに大きな影響を及ぼしていることがうかがわれた。

2021年度春学期のアンケート結果からは、抑うつ・不安の高い要支援学生が一定数在籍していることが示唆されており、大学内での自らの居場所の確認と友人関係の構築が必要と思われた。

クラス単位での交流の活性化を図るために、クラス長・副クラス長への支援を重要と考え、2020年度からクラス長会を実施している。2021年度は秋学期を迎える直前の9月29日に、1・2年生合同でクラス長会を実施



した。40名のクラス長・副クラス長が参加し、学年を超えた交流が行われた。

#### 2. 同郷の会

前年度と比べて対面授業が多くなったものの、従来よりも学生の大学での滞在時間は少ない状況が続いており、人とのつながりも希薄になることが予測された。特に下宿をしている学生は知り合いもほとんどおらず、孤立した生活となることが心配された。そのため、学年の垣根を超えて、同じ出身地の学生が集い交流する機会を作るために、同郷の会を実施した。4月16日、7月7日に開催し、それぞれ65名、26名の学生が参加した。



#### 3. グループ活動



インドアの会



将棋の会



ゲームの会

### SNS による支援

新型コロナウイルス感染症の流行収束が見えないなか、学生の生活も制限が続いていた。対面授業が再開されつつあるものの、人とのつながりが希薄になり、必要な情報へのアクセスも難しい状況であった。また、長期化する自粛生活の中で大学への帰属意識が薄れ、強い孤独感を抱える学生も増加した。そこで、学生支援本部では直接会うことが困難な状況の中で可能な支援として、SNS による支援を昨年度から継続して実施した。



### 1. Twitter や Youtube を用いた情報発信

学生支援本部の Twitter アカウントは 2017 年より開設されていたが、これまで積極的に活用されることはなかった。しかし、Web 上で情報収集をする学生や家族が増えることが予測されたため、Twitter の更新頻度を増やし、履修登録をはじめとした各種手続き、支援金や食料支援などの情報などを積極的に発信していった。また、大学に登校する機会が失われたことにより、特に新生の中には大学への帰属意識を持たずにいる学生も少なくないと思われたため、大学生活を少しでも身近に感じてもらえるような発信ができるように心掛けた。

さらに、2020 年に Youtube チャンネルを開設し、映像・音声に特化した情報発信を始めた。このチャンネルでは、大学内の道案内動画、本センターを紹介するアニメや歌動画に加え、さみしい思いをしている学生のためのラジオ番組などを配信した。

こうした活動を経て、Twitter のフォロワーは 2,000 名を超え、ダイレクトメッセージを通して相談を寄せる学生もおり、センターとしての相談の間口を広げることができた。

### 2. カウンセラー X ラジオ

2020 年から 2021 年の年末年始にステイホームや下宿でさみしい思いをしている学生のためのラジオ番組として配信を開始した。パーソナリティを学生相談のカウンセラーが担当し、年末年始やステイホーム中の過ごし方に関するアイデアや、支援金や食料支援などの情報だけでなく、学生支援本部の企画するイベントの情報を発信したり、「期末試験応援篇」「就活応援篇」など特別回も設けて、キャリアカウンセラーをゲストに迎えたりしながら、2021 年度は 16 回のラジオを配信した。

9 月 29 日には NHK 三宅民夫のマイあさ！7 時台深よみ「大学サークルの異変」の番組の中で取り上げられた。



## 2021年度に掲載されたメディア関係

### 2021年度に掲載されたメディア関係

2021年4月5日

NHK 名古屋放送局  
2年生の入学式

2021年4月20日

NHK オンライン  
大学生を、取り残さない

2021年4月22日

NHK 名古屋放送局  
総長カードで学生を支援

2021年6月1日

NHK 名古屋放送局  
変わる大学生の就職活動

2021年6月4日

NHK 名古屋放送局  
大学生の心のケアは

2021年6月16日

NHK 名古屋放送局  
コロナ禍で深刻に大学生の悩み

2021年9月29日

NHK 三宅民夫のマイあさ! 7時台深よみ  
「大学サークルの異変」

2021年11月

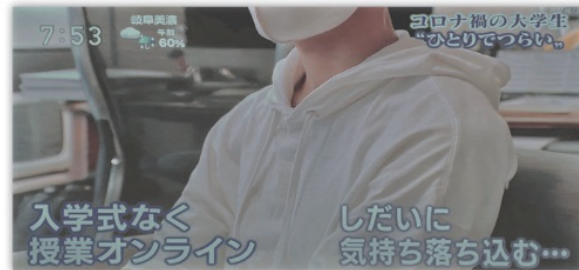
Newsweek 日本版  
世界に貢献する日本人 30 (古橋忠晃先生)

2021年12月17日

Newsweek 日本版  
フランスでも「ヒキコモリ」問題が拡大中、ただし日本とは大きな違いが (古橋忠晃先生)

2022年2月25日

毎日新聞  
「Hikikomori」仏語に定着 「生きづらさ」解消へ支援 (古橋忠晃先生)



### “カウンセラーX”も学生支援

学生が感じる不安や孤独を解消したいと、大学もあの手この手で支援に乗り出しています。



名古屋大学は、食料支援の情報や学生がつながることができるオンラインイベントのお知らせをツイッターで毎日のように配信、また去年は部長みずから学生の声を直接聞くオンライン対話も開催しました。

さらには「カウンセラーX」として学生支援センターのカウンセラーがラジオDJとして登場し、コロナ禍で実家に帰れず寂しい思いをしている学生などに向け、YouTubeを使って年末年始の深夜、6夜連続で語りかけました。

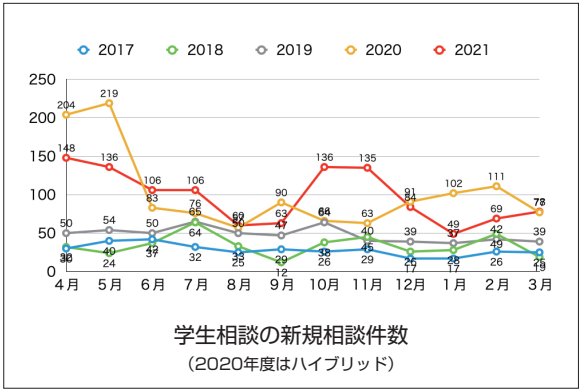
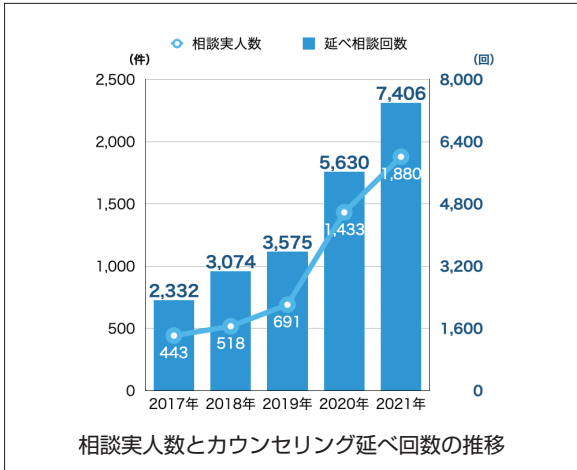
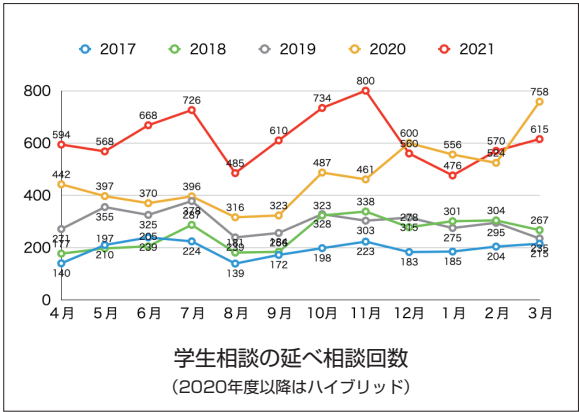


学生相談センターの活動

カウンセリング・教育連携室

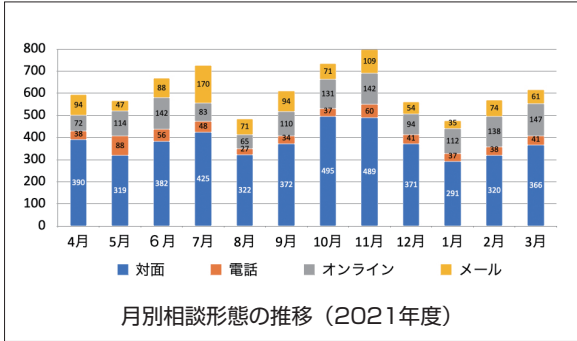
1. 経年変化にみる 2021 年度における特徴

2021 年度の新規相談件数は 1,170 件、延べ相談回数は 7,406 回であった。新規相談件数は学生支援本部全体における新規相談件数 2,446 名の約半数（47.8%）であった。延べ相談回数は学生支援本部全体（15,471 回）の 47.9% に相当した。2020 年度と比べると、2021 年度の新規相談件数は前年比 5.9% 減、延べ相談回数は 31.5% 増であった。月別の推移をみると、新規相談件数も延べ相談回数も 10、11 月に高くなっていた。

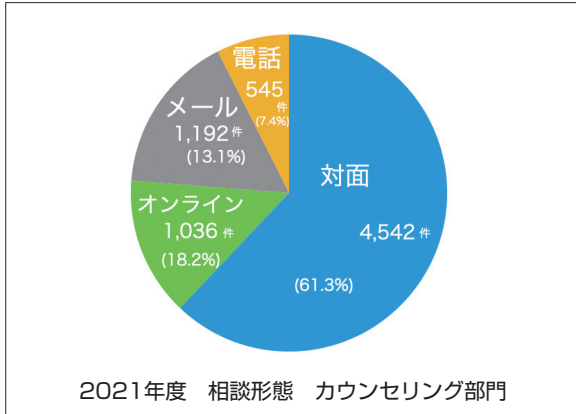


2. 2021 年度における相談形態

2021 年度は前年度から引き続き、対面相談、オンライン相談、電話、メール相談も行った。全体の約 6 割は対面相談であり、オンライン相談も合わせると約 8 割であった。学生たちが顔の見える相談を求めていることがわかる。

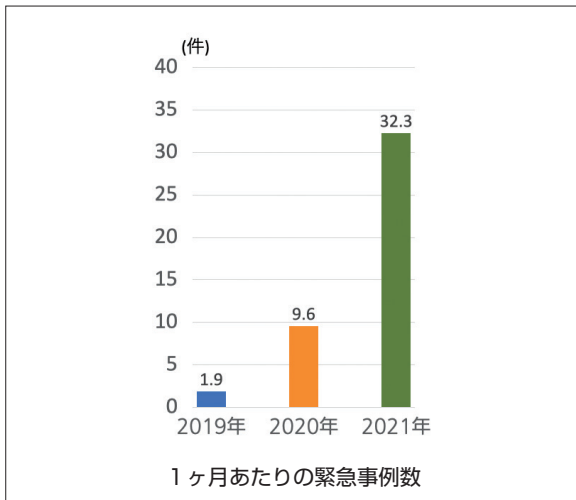


## 学生相談センターの活動



### 3. 緊急対応事例

2021年度の緊急対応事例は1ヶ月平均32.3件であった。前年度の3.4倍と激増した。これをうけてメンタルヘルス緊急事態を宣言し、全学生面接の実施を行うこととなった。



### 4. 一次支援強化の取り組み

学生相談の利用者が毎年増加傾向にあることを受けて、一次支援の強化が課題となっていた。さらに、コロナ禍において相談ニーズが急速に高まりを見せることとなった。

一次支援強化の一環として、2019年度より名古屋大学の全構成員（学生・教職員）を対象としたグループプログラム「名大いこまいセミナー」を開始した。このプログラムは岐阜大学で開発されてきたプログラムを参考としたもので、名古屋大学においては新しい世界に触れてもらうことを目的とした。2021年度はオンラインでのプログラムに加え、少人数ではあるもの参集型でのプログラムも実施した。

2021  
春学期

## 名大いこまいセミナー

名大いこまいセミナーとは、授業・サークル・バイトなどの日常生活では味わうことのできない新しい世界に触れてもらうことを目的としたセミナーです。学生支援センターと縁のある教職員の方や学生を講師としてお迎えし、趣味や研究・活動について語っていただきます。名大・岐大関係者であれば、どなたでも大歓迎。迷ったら、いこまい!!

いこまいは、セミナーだけじゃない!?

いこまいプロジェクト  
学生支援センター、保健管理室、健康増進センター、学生生活支援センター、学生生活支援センター

何か始めたい、まみ出したい、そんなときにもぜひご連絡くださいね〜!

お問い合わせは、  
名古屋大学学生本部  
TEL: 052-789-5805  
MAIL: soudan@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp

2021年度第1回は…  
『分岐点』講師 → 長島渉先生 (精神科医)

2021年度第1回は、保健管理室/学生支援本部の精神科医 長島渉先生を講師としてお迎えしてお送りします!  
長島先生が精神科医になられるまでや、精神科医として大学の中で働くということなどについて、「分岐点」をテーマにお話していただきます。予想しなかった展開のなかで浮かび上がってくるものは…。新しい世界に触れてみましょう!!

日時: 6月16日(水) 15:00~16:30  
対象: 名大・岐大の全学生および教職員  
開催方法: オンライン(zoom)  
※zoomリンクは随時お知らせします。

お申込みはこちらから →  
その他のプログラムも、随時お知らせしていきます☆

## 名大いこまいセミナー 2021

いこまいセミナーとは、授業・サークル・バイトなどの日常生活では味わうことのできない新しい世界に触れてもらうことを目的としたセミナーです。学生支援本部と縁のある教職員の方や学生を講師としてお迎えしていただきます。授業や研究室生活とは違った一面が見られるかもしれません。セミナーでの新しい体験を、みなさんのスキルアップや交流に役立てていただけたらと思います。  
※「いこまい」とは東海地方の方言で「行ってみよう」を意味しています。この企画は、岐阜大学のプログラムを参考にしています。

**第2回 ようこそ、いけばなの世界へ**

**講師** 藤嵜 知子 先生  
(池坊いけばな教室 講師)

今回は、池坊いけばな教室 藤嵜先生を講師としてお迎えし、いけばなの歴史や花についてお話ししていただきます。お題のほかに、学生支援本部の周りの植物を使って、実際にいけばな体験もしてみよう!!  
一緒に身近な植物に触れて、ほっとする時間を過ごしてみませんか?

**日時** 2021年7月14日(水)  
15時~16時30分  
(オンライン中継は途中での入室も自由です)

**開催場所** 学生支援棟 会議室  
+オンライン(zoom)中継  
※リンクは開催が近づきましたらお知らせします!

**持ち物** ハサミ、ぞうきん  
お花をいける器やコップ  
(水が入ればOK)

※お花をいけるための一合マスを用意しておりますので、※現地参加のお申込み締め切りは、  
器やコップはお持ちいただくなくても大丈夫です。 7月7日正午とさせていただきます。

今後さまざまなプログラムを計画中です!  
詳細は学生支援センターのTwitterや  
ホームページをチェックしてくださいね!!

お問い合わせ  
名古屋大学学生支援本部  
TEL: 052-789-5805  
MAIL: soudan@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp

**定員** 10名(抽選)

※感染対策のため、現地での参加には定員を設けてさせていただきます。Zoomにて中継もいたしますので、オンラインでもお楽しみいただけます。事前に当日使う物はお知らせしますので、お家でぜひいけばなをお楽しみください!ね〜!

お申込みはこちらから →



## 学生相談センターの活動

### 5. 心の健康アンケート

本学では、心の健康状態の早期発見早期支援の一環として、2014年度より新入生を対象としたアンケートを実施してきたが、この数年は来談学生が急増しており、1次支援強化策として2019年度からアンケートの充実を図ってきた。2021年度は、前年度から続くコロナウイルスの流行による学生のメンタルヘルス悪化の懸念と、エビデンスに基づいた支援を行うために、2020年度と同様に入学時に加え、入学後半年経過時に再度アンケートを実施した。また、2020年度から引き続き、新入生だけではなく2年生以上の全学生に対しても、図1の主な使用尺度を中心とした項目から成るアンケートを5月と11月に2度実施した。心理的支援の必要な学生には、個別に連絡し、早期支援を行った。

心の健康アンケートの特徴は右記の通りである。

#### 1. 心理的基盤に関する尺度 (項目は一部)

- 自尊感情** 「私は、自分自身にだいたい満足している」  
「自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じている」
- 人生満足度** 「私は自分の人生に満足している」
- 社会的サポート** 「私には困ったときにそばにいてくれる人がいる」  
「私には私の気持ちについて何かと気遣ってくれる人がいる」

#### 2. 心理的リスクに関する尺度

- 抑うつ** 「好ましくないことを考えてしまい、コントロールできない」  
「死にたいと考えることがある」
- 全般的に不安** 「心配していることがたくさんある」  
「恐怖やパニックに陥ることがある」

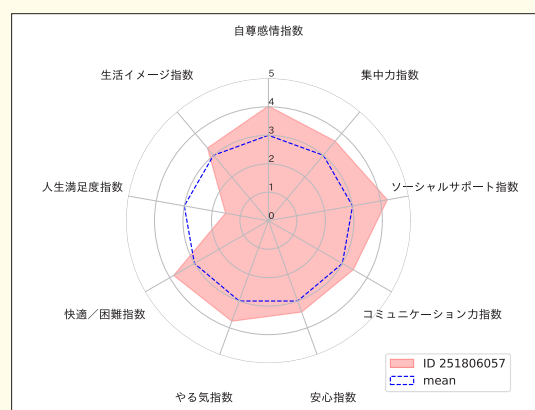
#### 3. 発達障害傾向に関する尺度

- 自閉スペクトラム症 (ASD) 尺度 (AQ)**  
「私は、あることにとても強い興味を持つ傾向があり、追求することができないと困惑してしまう」  
「私は、人の意図を分かるのが難しい」
- 困り感尺度** 「衝動的に行動してしまい困る」  
「グループ活動では居ごちが悪くて困る」  
「忘れ物が多くて困る」

図1 主な使用尺度 (困り感尺度以外は国際尺度)

- 1) 心理的基盤 (基盤データ)、心理的リスク (リスクデータ) と発達障害傾向 (特性データ) を把握できる質問項目から構成されており、学生の心理的特徴が詳細に把握でき、支援時の情報として有効活用できる (図1)。
- 2) フィードバック希望学生には、フィードバック用紙 (図2) を送付、学生の自己理解を促すとともに、必要に応じて個別面接を実施でき、早期に学生相談センターと繋がることのできる。
- 3) 各部局 FD などによって、教職員が当該部局の学生の特徴を理解することが可能であり、教育や学生対応に活かすことができる。
- 4) センターにおいて、部局の学生特徴に応じた支援や介入の提案などが可能である。

フィードバック希望学生数 (2020年度実績)  
4月 学部新入生 644名 (32.0%) / 院新入生 427名 (38.1%)  
9月 学部新入生 240名 (11.0%)  
10月 2年生以上の学生 585名 (24.0%)  
・各学生の結果をレーダーチャートに示し、メールにて送付 (要支援学生には個別連絡)  
・メール本文には、センターの利用方法を促す説明文を記載



スコア	
自尊感情指数	4.0
生活イメージ指数	3.3
人生満足度指数	1.5
快適/困難指数	3.8
やる気指数	3.8
安心指数	3.4
コミュニケーション力指数	3.4
ソーシャルサポート指数	4.2
集中力指数	3.6

図2 アンケート結果の活用: 学生へのフィードバック (例)

## 学生相談センターの活動

### 主な結果（一部）

〈1年生〉

- 1) 1年生の心理的基盤、心理的リスクの平均値は、概ね2020年度と同様の結果であったが、抑うつ・不安の高い要支援学生や、発達障害傾向学生は一定数在籍していることが示唆された。
- 2) 入学時と半年後の比較では、2020年度と同様に抑うつと不安の高まりが示された。長引くコロナウイルス流行下では、入学後しばらくしてから抑うつや不安が高まることうかがわれた。

〈2年生以上〉

- 3) 自尊感情や人生満足度といった心理的基盤の部分は、1年生や2年生および院生に比して4年生以上が低く、一方で、抑うつ、不安は4年生が高いことが示された。コロナ禍で3年生になり、就活や研究室活動を始めた4年生には、就職ガイダンスや指導教員との面談など、就活や研究室適応をサポートする必要があると考えられた。

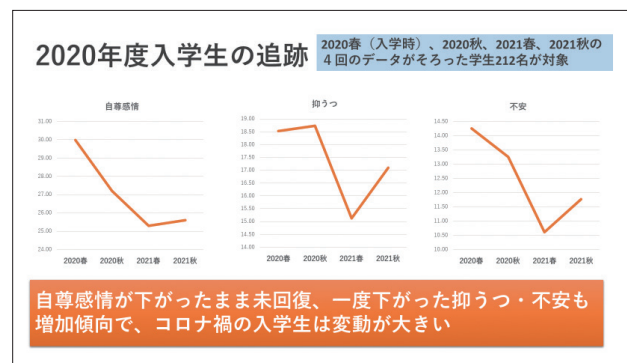
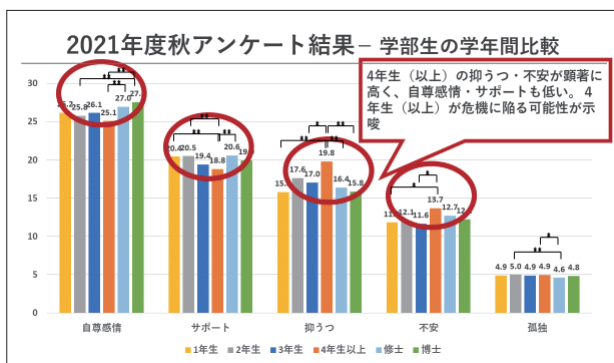
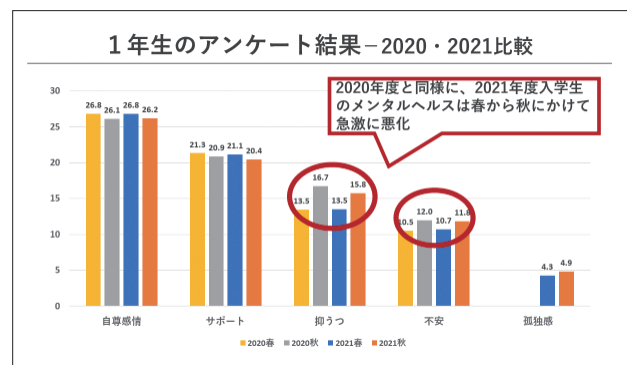
〈全体〉

- 1) 2020年度から引き続き全学生を対象にアンケートを実施したことによって、学生の心の健康の変化の傾向に関する示唆を得ることができた。特に、コロナ禍の2020年度入学生は、自尊感情が回復しておらず、抑うつと不安も増加傾向にあるため、今後より注意が必要であると考えられた。

### 今後の計画

コロナウイルス流行による大学生活や対人関係上の変化は、学生のメンタルヘルスに大きな影響を及ぼしている。2020年度から続くアンケートによって、コロナウイルス流行による学生の心の健康への影響を追跡し、結果を広く教育や支援に活用したい。蓄積されたデータに基づいた支援によって、コロナウイルスの動向が不透明な中でも、学生支援本部は柔軟に学生の心理的成長やウェルビーイング向上に最大限の貢献をしてゆく計画である。

アンケート概要	2021年 新入生		2021年 学部2年生以上	
	春（4月）	秋（10月）	春（5月）	秋（11月）
自尊感情、優越（幸福度）、人生満足度、抑うつ、不安、ソーシャルサポート、相談希望		自尊感情、抑うつ、不安、ソーシャルサポート、相談希望	自尊感情、優越（幸福度）、人生満足度、抑うつ、不安、ソーシャルサポート、相談希望	自尊感情、抑うつ、不安、ソーシャルサポート、相談希望
コロナ禍でのストレス、生活上の影響、勉強モチベーション				
ASD、ASD困り感、孤独感		孤独感	ASD、ASD困り感、孤独感	孤独感
回収率	86.6%	24.8%	16.8%	12.1%
回答者数	1,894名	538名	2,344名	1689名



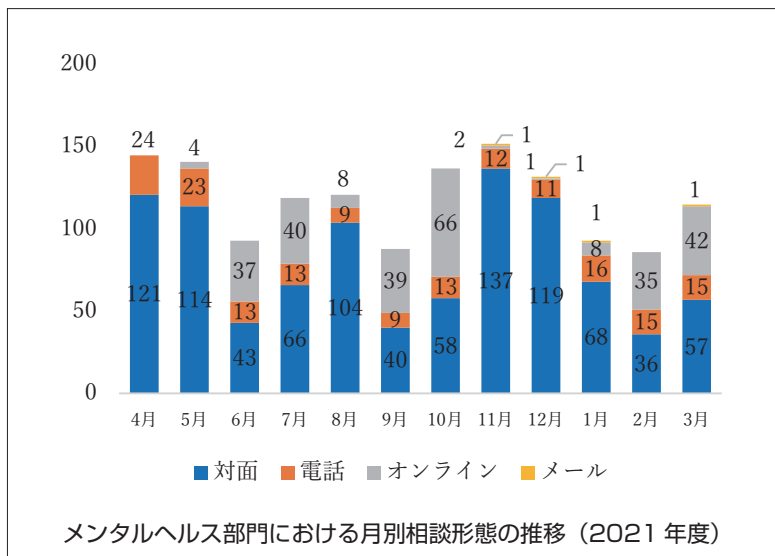
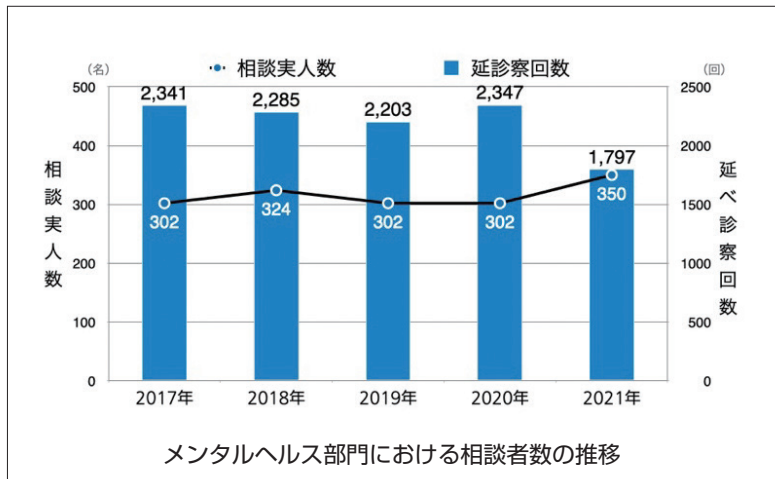
## 学生相談センターの活動

### メンタルヘルス支援

2021年度も、受診学生の中では、これまでと同様にとりわけ自閉症スペクトラム障害やひきこもりの学生の受診が目立っていた。さらに、睡眠障害や心気症など、新たに多く見られるようになった。

また、2021年度においても、名古屋市から「若者向け自殺対策事業補助金」を受け、2021年12月に「様々なかたちに変容しつつある若者たちの希死念慮—コロナ禍におけるこころの支援のあり方—」というタイトルでこころの絆創膏セミナーを開催し、「子どもは何を病むか『かぐや姫症候群』—児童思春期のうつ状態に関する一考察」というタイトルで独立行政法人国立病院機構神原病院山崎敏生先生に講演をお願いし、愛知県など近隣の大学や短大の学生支援に関わる専門家との情報交換を行った。

2021年度は、保健管理室の建て替え工事による引っ越しなどの要因によって、月別の受診人数が変動したものと思われる。2021年度もひきこもり傾向の学生が（少なくとも相談員の古橋による診療では）受診の多くを占めるようになっていた。これは名古屋大学の学生にとどまる傾向ではなく、全国的にさらにはヨーロッパ全体でも同様の傾向があり古橋のもとには2021年度もマスコミの取材も多く社会の関心を集めた。相談員の長島は、引き続き鶴舞キャンパスでのコロナ対応で心身に不調をきたした病院のスタッフの相談対応も数多く行っていた。相談員の横井は、東山キャンパス全学教育棟本館で入学当初からコロナ禍の影響を心身に大きく受けた学部1年生の対応も数多く行っていた。



## 共修推進

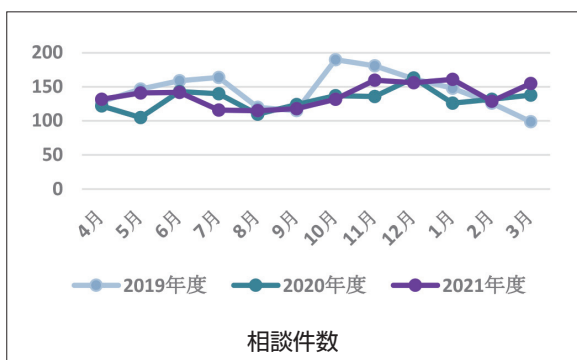
### 1. 相談

#### (1) 個別相談実績報告

- ・個別相談概要（相談件数、面接総回数、相談内容項目等）

『国際機構国際教育交流センター紀要』の「アドバイジング部門報告」を参照（2021年度報告については2022年秋頃掲載予定）URL：<http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/about/pub.html>

\*ただし、留学生からの勉学・生活相談には、各部署の留学生相談室等において国際化推進教員が対応しており、その相談件数は上記に含まれていない。



#### (2) コロナ禍の留学生相談の特徴

アドバイジング部門および各部署の留学生相談室等で対応した相談には、下記のような特徴がみられた。

##### 2020年度

- ・コロナ関連情報が留学生に届きにくい（不安やあきらめが増大）
- ・国際移動困難による問題の複雑化（健康状態悪化時に一時帰国や家族の呼び寄せ困難、親族に不幸があっても帰国できないなど）

##### 2021年度

- ・入学しても水際対策により入国できない事例の増加（日本留学決断の後悔、日本政府や大学への不信感、研究の遅れ、将来への不安など）
- ・紛争・戦争地域から来日した学生の不安や不調
- ・入国待機していた学生が一挙に入国する可能性。宿舍入居期間の短縮が検討されている。異文化適応の最中で住居探し。ストレス大  
→ハウジングコーディネーターが必要
- ・紛争地域から来日している学生への支援体制の整備（精神的サポートだけでなく、家族の来日や避難民としての手続きも）

- ・来日できず研究の進捗が遅れた学生の不安が増大する可能性（在籍年限超過時の授業料免除など）
- ・コロナ禍に加えて、紛争の長期化による世界的経済状況の悪化によって、母国から留学生への仕送りが滞る可能性

**\*入国後の個別相談体制のみならず、制度面の全学的支援も重要**

### 2. アウトリーチ

#### (1) 留学生対象の Covid-19 にかかわる実態調査

- ・2020年4月に、国際教育交流センターと学生交流課共同で全学の留学生を対象に Covid-19 にかかわる実態調査（ウェブアンケート調査）を行い、一般日本人学生の結果との比較を行った。結果は当センターのウェブページに掲載し公開した。

URL：<http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/index.shtml>

#### (2) コロナ禍特有のアウトリーチ

上記アンケートによって明らかとなった留学生の状況に対応すべく、自宅学習のコツや、心理的反応についてまとめ、当センターアドバイジング部門のウェブページに掲載した。URL：<https://acs.iee.nagoya-u.ac.jp/>

#### (3) コロナ禍の授業・共修プログラム等

国際機構国際教育交流センターの授業や共修プログラムについては、通常のイベントをオンラインで継続的に行い留学生と一般学生、または留学生と地域住民等の共修を促進するとともに、コロナ禍での学生たちの孤立感を和らげ、人間関係を築けることを意識した予防プログラムを行った。入学者へのオリエンテーションや相談会もオンラインで開催した。

### 3. 学生支援センター心の健康に関するアンケートへの対応

- ・2020年10月に学生支援センター主体で全学的に実施されたアンケートの自由記述欄に、留学生からの相談希望が複数書かれていた。未対応だった相談については、12月に共修推進室から個別メールを出し、対応した。

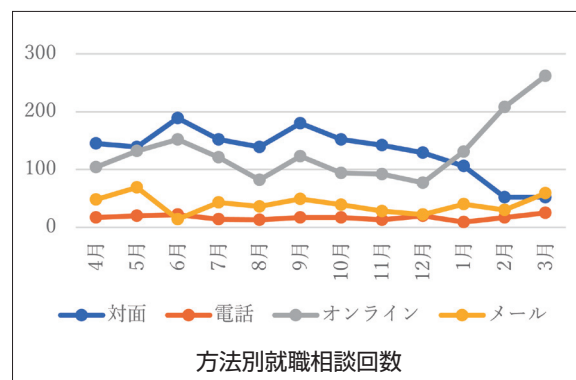
## キャリアサポートセンターの活動

### 1. 今年度の特徴「オンラインによる就職支援」



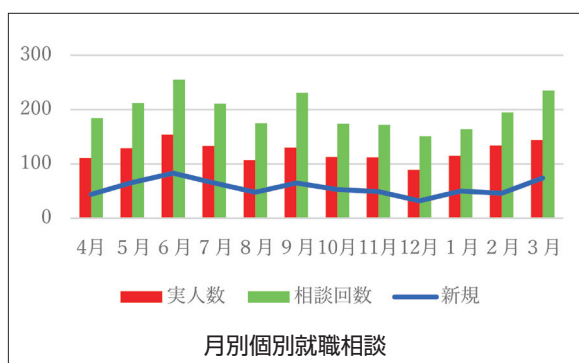
一昨年からの環境下、oViceを活用し、学生支援本部内キャリアサポートセンターとバーチャルキャリアサポートセンターで学生の就職支援を展開した。今年度は体制を整え、就職支援にかかわる企画もほぼオンライン開催とすることで充実を図った。一昨年中止を余儀なくされた学内合同企業説明会は令和3年および令和4年3月にオンラインにて開催。その他大規模ガイダンス、具体的就活支援の各種セミナー、ターゲットを絞ったミニ講座・キャリアランチ等も同様オンラインにて開催した。個別学生への対応もキャリアサポートセンターのカウンター対応と並行しバーチャルオフィスに来る学生にも対応、相談員による就職相談やボランティア学生による就活サポーター活動も対面相談に加え、このバーチャルキャリアサポートセンターに相談室を設置して対応した。事前の設定やURL連絡等の手間が省け学生はNUNAVIから簡単に入室することができ、利便性も高まった。

体の9.9%にのぼる。平均相談回数は3回前後だが、過年度生(留年・休学等)はB4以上で10.2回、M2以上で5.4回と継続支援のケースが多く、特に既卒生は17人に対し222回で平均13回と年間を通じ支援の対象となった。



昨年度に引き続き、対面以外に電話やオンライン等の相談方法を取り入れた。合わせて前述の通り、oViceというバーチャルオフィスのシステムも取り入れた。学生は、対面、オンライン(スカイプ、oVice)、電話から希望の形式を選択する。オンライン面接の練習はオンラインで、就職活動に関する不安の相談や対面面接の練習は対面で等それぞれのニーズに合わせて使い分けができていた。

### 2. 個別相談概要



1年間に就職相談を利用した人数は990名、延べ回数は3,800回であった。内訳はB4(含以上)が734回で19.3%、M2(含以上)が804回21.2%、M1が844回で22.2%、Dが666回で17.5%、学部3年が345回9.1%と続き、教職員・保護者他の相談回数も全

## キャリアサポートセンターの活動

### 3. イベント一覧

#### 令和3年4月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
6日(火)	第1回B人セミナー「名古屋大学融合フロンティアフェロースHIP・学振特別研究員 申請書チェックセミナー 第一弾」	オンライン	2名	博士前後期課程で「名大融合フロンティアフェロースHIP」に申請予定の人文社会系の学生
7日(水)	就活ミニ講座① エントリーシート対策	オンライン	6名	2022年3月卒・修了予定者
	第1回B人セミナー「名古屋大学融合フロンティアフェロースHIP・学振特別研究員 申請書チェックセミナー 第一弾」	オンライン	14名	博士前後期課程で「名大融合フロンティアフェロースHIP」に申請予定の留学生
9日(金)	キャリアランチ交流会	オンライン	8名	国際学生
12日(月)	大学院生のためのキャリアガイダンス（4月）	オンライン	6名	博士後期課程・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
14日(水)	就活ミニ講座② なんでも就活相談会	オンライン	7名	2022年3月卒・修了予定者
21日(水)	キャリアランチ交流会	オンライン	7名	国際学生
22日(木)	就活ミニ講座③ 面接対策	オンライン	6名	2022年3月卒・修了予定者
	ステップバイステップ	オンライン	2名	全学年・既卒者
27日(火)	第1回教員対策講座（講座形式による試験）	オンライン	29名	教員志望生向け
28日(水)	キャリアガイダンス	オンライン	190名	全学年
	就活ミニ講座④ なんでも就活相談会	オンライン	3名	2022年3月卒・修了予定者

#### 令和3年5月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
6日(木)	インターンシップガイダンス① 企業と実習プログラムの探し方	オンライン	126名	全学年
12日(木)	インターンシップガイダンス② 企業と実習プログラムの絞り方	オンライン	104名	全学年
13日(木)	第2回B人セミナー「申請書チェックセミナー【第一弾】」	オンライン	6名	博士前後期課程で「名大融合フロンティアフェロースHIP」に申請予定の人文社会系の学生
14日(金)	就活ミニ講座① 面接対策	対面	5名	2022年3月卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会①	オンライン	9名	国際学生
15日(土)	就業体験・職業理解企業展①	オンライン	237名	全学年
16日(日)	就業体験・職業理解企業展②	オンライン	259名	全学年
19日(水)	インターンシップガイダンス③ 企業と実習プログラムの決め方	オンライン	89名	全学年
	就活ミニ講座② なんでも就活相談会	オンライン	2名	2022年3月卒・修了予定者
25日(火)	留学生インターンシップ説明会（愛知県庁主催）	オンライン	約50名	国際学生
26日(水)	インターンシップ対策講座① E S対策・面接対策	オンライン	107名	インターンシップ参加希望者
	キャリアランチ交流会②	オンライン	7名	国際学生
27日(木)	ステップバイステップ	オンライン	3名	全学年・既卒者
	就活ミニ講座③ なんでも就活相談会	オンライン	4名	2022年3月卒・修了予定者
	大学院生のためのキャリアガイダンス（5月）	オンライン	23名	博士後期課程・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生

#### 令和3年6月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
9日(水)	就活ミニ講座① 就活サロン（なんでも就活相談会）	オンライン	6名	2022年3月卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会①	オンライン	7名	国際学生
10日(木)	第6回博士のキャリアパスウェビナー～キャリアパスいろいろ～	オンライン	50名	全学年・東海機構教職員
14日(月)	大学院生のためのキャリアガイダンス（6月）	オンライン	5名	博士後期課程・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生

## キャリアサポートセンターの活動

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
16日(水)	インターンシップ対策講座② 職務適性テストの結果の読み方・活かし方	オンライン	69名	インターンシップ参加希望者
	第3回B人セミナー「クリエイティブ・シンキング」	オンライン	19名	博士後期課程・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
17日(木)	ステップバイステップ	オンライン	3名	全学年・既卒者
18日(金)	7月合説攻略講座（7月合説の攻略法・まわり方）	オンライン	18名	7月合同企業説明会に参加する学生
	障害学生 就職ガイダンス	オンライン	15名	障害・診断・自身の特性に不安のある学生（全学部・研究科）、保護者
23日(水)	インターンシップ事前研修① インターンシップ参加の注意点	オンライン	83名	インターンシップ参加希望者
24日(木)	就活ミニ講座② 就活サロン（なんでも就活相談会）	オンライン	0名	2022年3月卒・修了予定者
	第4回B人セミナー「コンサルティング業界を知ろう」	オンライン	45名	博士後期課程・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
25日(金)	キャリアランチ交流会②	オンライン	8名	国際学生
30日(水)	インターンシップ事前研修② 身だしなみ・マナー講座	オンライン	77名	インターンシップ参加希望者
	7月合説直前対策講座（oViceを体験してみよう・当日の計画を立てよう）	オンライン	35名	7月合同企業説明会に参加する学生
	第5回B人セミナー「人生とお金の知恵」	オンライン	81名	博士後期課程・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生

### 令和3年7月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
1日(木)	就活ミニ講座 2023 ① インターンシップなんでも相談会	オンライン	1名	2023年3月卒・修了予定者
2日(金)	第6回B人セミナー「魅力的なPR動画を作ろう【基礎編】」	オンライン	33名	全学年・東海機構教職員
3日(土)・4日(日)	7月合同企業説明会	オンライン	延べ459名	東海地区の国公立大学に在籍する2022年3月卒・修了予定者
7日(水)	就活ミニ講座 2022 ① 就活サロン（なんでも相談会）	オンライン	1名	2022年3月卒・修了予定者
	2021年度岡崎3機関等博士人材のためのキャリアパスセミナー&相談会における講演	オンライン	—	大学院生・教職員
7日(水)・8日(木)	2021年度岡崎3機関等博士人材のためのキャリアパスセミナー&相談会 個別相談会	オンライン	—	大学院生・教職員
9日(金)	キャリアランチ交流会①	オンライン	5名	国際学生
	大学院生のためのキャリアガイダンス（7月）	オンライン	6名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
	第1回学外向け「企業と博士人材の交流会」事前ガイダンス	オンライン	28名	企業と博士人材の交流会参加予定博士人材（主に学外向け）
12日(月)	2021年度 第1回博士後期のための就活前セミナー	オンライン	22名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
14日(水)	第2回学外向け「企業と博士人材の交流会」事前ガイダンス	オンライン	8名	企業と博士人材の交流会参加予定博士人材（主に学外向け）
15日(木)	ステップバイステップ	オンライン	2名	全学年・既卒者
15日(木)・16日(金)	留学生のための企業説明&選考会	オンライン	26名	2022年3月卒・修了予定の国際学生
16日(金)	就活ミニ講座 2023 ② 就活なんでも相談会	オンライン	3名	2023年3月卒・修了予定者
	第7回B人セミナー「魅力的なPR動画を作ろう【応用編】」	オンライン	19名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
21日(水)	就活ミニ講座 2022 ② 就活サロン（なんでも相談会）	オンライン	1名	2022年3月卒・修了予定者
28日(水)	キャリアランチ交流会②	オンライン	5名	国際学生

## キャリアサポートセンターの活動

### 令和3年8月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
2日(月)	第2回教員対策講座① 個人面接対策	オンライン	7名	教員志望生
3日(火)	第2回教員対策講座② 個人面接対策	オンライン	7名	教員志望生
4日(水)	就活ミニ講座 2022 ① 就活サロン（なんでも就活相談会）	オンライン	2名	2022年3月卒・修了予定者
	リーディング大学院登龍門「メンター前研修」	オンライン	5名	リーディング大学院登龍門受講生
18日(水)	就活ミニ講座 2022 ② 就活サロン（なんでも就活相談会）	オンライン	4名	2022年3月卒・修了予定者
20日(金)	障害学生就労支援研修会	オンライン	40名	大学の障害学生支援担当者、企業の障害者採用担当者、地域の障害者支援機関
	博士の交流サロン	オンライン	12名	企業、「博士人材の交流会」参加予定の博士人材
24日(火)	就活ミニ講座 2023 ① これからの就活進め方講座	オンライン	10名	2023年3月卒・修了予定者
25日(水)	キャリアランチ交流会	オンライン	18名	国際学生
26日(木)	ステップバイステップ	オンライン	1名	全学年・既卒者
8月	企業と博士人材の交流会のPRサイト		博士人材131名、企業43社	博士後期課程・ポスドク・企業

### 令和3年9月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
1日(水)	9月学内個別採用選考会 直前対策講座	オンライン	71名	2023年3月卒・修了予定者
8月30日(月)～9月3日(金)	企業と博士人材の交流会【博士人材編】	オンライン	博士人材131名、企業43社	博士後期課程・ポスドク・企業
7日(火)～9日(木)	企業と博士人材の交流会【企業編】	オンライン	博士人材131名、企業43社	博士後期課程・ポスドク・企業
8日(水)	就活ミニ講座 2022 ① 就活サロン（なんでも就活相談会）	オンライン	4名	2022年3月卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会①	オンライン	17名	国際学生
14日(火)	大学院生のためのキャリアガイダンス（9月）	オンライン	11名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
15日(水)・16日(木)	9月学内個別採用選考会	オンライン	85名	2022年3月卒・修了予定者
16日(木)	ステップバイステップ	オンライン	4名	全学年・既卒者
21日(火)	就活ミニ講座 2023 ① 教えて先輩！	オンライン	13名	2023年3月卒・修了予定者
22日(水)	キャリアランチ交流会②	オンライン	18名	国際学生
30日(木)	就活ミニ講座 2022 ② 就活サロン（なんでも就活相談会）	オンライン	1名	2022年3月卒・修了予定者

### 令和3年10月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
1日(金)	就職ガイダンス	オンライン	119名	全学年（主に学部3年・前期課程1年）
6日(水)	第11回B人セミナー「学術出版業界を知ろう！」	オンライン	61名	博士前後期課程・ポスドク
12日(火)	大学院生のためのキャリアガイダンス（10月）	オンライン	5名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
13日(水)	就活準備講座① インターンシップ事後研修	オンライン	39名	全学年（主に学部3年・前期課程1年）
	就活ミニ講座 2022 ① 就活サロン（なんでも就活相談会）	オンライン	1名	2022年3月卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（日本語）①	オンライン	9名	国際学生
13日(水)・14日(木)	企業と博士人材の交流会【企業編】	オンライン	63名（企業からの参加者を除く）	博士後期課程・ポスドク・前期のオブザーバー
15日(金)	留学生春季！S説明会	オンライン	35名	国際学生
19日(火)	就活ミニ講座 2023 ① 教えて先輩！	オンライン	6名	2023年3月卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（英語）	オンライン	8名	国際学生



## キャリアサポートセンターの活動

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
20日(木)	就活準備講座②	オンライン	49名	全学年 (主に学部3年・前期課程1年)
	工学研究科キャリアガイダンス	オンライン	16名	国際学生
21日(木)	ステップバイステップ	オンライン	2名	全学年・既卒者
22日(金)	第12回 B人セミナー「レジリエンストレーニング」	オンライン	70名	博士前後期課程・ポスドク・教職員
	B人セミナー番外編「名大発ベンチャーを知ろう」	オンライン	15名	博士前後期課程・ポスドク
27日(木)	就活実践講座①	オンライン	31名	全学年 (主に学部3年・前期課程1年)
	人文学研究科キャリアガイダンス（留学生のためのキャリアガイダンス）	オンライン	18名	国際学生
28日(木)	就活ミニ講座 2022 ② 就活サロン（なんでも就活相談会）	オンライン	0名	2022年3月卒・修了予定者
29日(金)	キャリアランチ交流会（日本語）②	オンライン	5名	国際学生
	第7回 博士のキャリアパスウェビナー	オンライン	25名	全学年対象・東海機構教職員・連携大学のキャリア支援教職員

### 令和3年11月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
2日(火)	法学研究科キャリアガイダンス（留学生のためのキャリアガイダンス）	オンライン	6名	国際学生
4日(木)	日本企業理解講座①	オンライン	26名	国際学生
10日(木)	就活実践講座②	オンライン	31名	全学年 (主に学部3年・前期課程1年)
	キャリアランチ交流会（日本語）①	オンライン	2名	国際学生
11日(木)	就活ミニ講座 2022 就活サロン	オンライン	1名	2022年3月卒・修了予定者
	日本企業理解講座②	オンライン	18名	国際学生
12日(金)	第13回 B人セミナー「外資系企業を知ろう」	オンライン	38名	全学年
16日(火)	キャリアランチ交流会（英語）	オンライン	5名	国際学生
	第14回 B人セミナー「Introduction to Journal Publishing」	オンライン	46名	博士前後期課程・ポスドク
17日(木)	就活ミニ講座 2023 ① エントリーシートの疑問解決	オンライン	6名	2023年3月卒・修了予定者
18日(木)	ステップバイステップ	オンライン	2名	全学年・既卒者
	日本企業理解講座③	オンライン	14名	国際学生
24日(木)	就活ミニ講座 2023 ② 博士課程進学のあるこれ（文系）	オンライン	8名	2023年3月卒・修了予定者
	書類対策講座	オンライン	46名	2023年3月卒・修了予定者
25日(木)	キャリアランチ交流会（日本語）②	オンライン	4名	国際学生
	日本企業理解講座④	オンライン	18名	国際学生
	大学院生のキャリアガイダンス（11月）	オンライン	9名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
26日(金)	企業と大学との障害学生就職についての意見交換会	オンライン	15名	企業の障害者採用担当者
29日(月)	就活ミニ講座 2023 ③ 理系学部卒就活のあるこれ	オンライン	3名	2023年3月卒・修了予定者
30日(火)	就活ミニ講座 2023 ④ 博士課程進学のあるこれ（理系）	オンライン	17名	2023年3月卒・修了予定者
10、11月	第10回 B人セミナー「研究リテラシー」秘密情報管理、利益相反マネジメント、安全保障輸出管理、遺伝資源管理	オンデマンド	21名	博士前後期課程・ポスドク

## キャリアサポートセンターの活動

### 令和3年12月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
1日(水)	面接対策講座	オンライン	57名	2023年3月卒・修了予定者
2日(木)	JETRO GBWS	オンライン	9名	国際学生
	留学生向けキャリアデザインセミナー（日本語）	オンライン	15名	博士前後期課程・研究生
5日(日)	官公庁研究セミナー	オンライン	113名	全学年
6日(月)	お休みに聞く業界研究講座① 顧客の違い	オンライン	18名	2023年3月卒・修了予定者
7日(火)	お休みに聞く業界研究講座② 自動車・機械	オンライン	22名	2023年3月卒・修了予定者
	就活ミニ講座 2023 ① はじめてのグループディスカッション	対面	6名	2023年3月卒・修了予定者
8日(水)	お休みに聞く業界研究講座③ 商社	オンライン	15名	2023年3月卒・修了予定者
	ビジネスマナー講座	オンライン	42名	2023年3月卒・修了予定者
	なんでも相談会	オンライン	9名	国際学生
9日(木)	お休みに聞く業界研究講座④ 情報・通信	オンライン	18名	2023年3月卒・修了予定者
	JETRO GBWS	オンライン	9名	国際学生
	GSID キャリアガイダンス	オンライン	11名	国際学生
	留学生向けキャリアデザインセミナー（英語）	オンライン	30名	博士前後期課程・研究生
10日(金)	1月選考会直前対策講座	オンライン	2名	2023年3月卒・修了予定者・既卒者
	お休みに聞く業界研究講座⑤ 食品	オンライン	14名	2023年3月卒・修了予定者
	障害学生就職ガイダンス	オンライン	5名+2名 (保護者)	全学年
	キャリアランチ交流会（日本語）	オンライン	3名	国際学生
13日(月)	お休みに聞く業界研究講座⑥ 流通・運輸・小売	オンライン	8名	2023年3月卒・修了予定者
14日(火)	お休みに聞く業界研究講座⑦ インフラ	オンライン	14名	2023年3月卒・修了予定者
	就活ミニ講座 2022 就活サロン	オンライン	1名	2022年3月卒・修了予定者
	採用担当者×大学教職員の情報交換会	オンライン	95社	「企業研究セミナー 2022」参加企業・教職員
15日(水)	お休みに聞く業界研究講座⑧ 素材・化学	オンライン	15名	2023年3月卒・修了予定者
16日(木)	お休みに聞く業界研究講座⑨ 金融	オンライン	5名	2023年3月卒・修了予定者
	就活ミニ講座 2023 ② 自己PRって??	対面	3名	2023年3月卒・修了予定者
	JETRO GBWS	オンライン	8名	国際学生
	博士後期の就活前セミナー	オンライン	10名	博士後期課程2年以上
17日(金)	お休みに聞く業界研究講座⑩ 総合職と一般職の違い	オンライン	9名	2023年3月卒・修了予定者
	環境学研究科キャリアガイダンス	オンライン	3名	国際学生
18日(土)	OBOG 交流会①	オンライン	延べ79名	2023年3月卒・修了予定者
19日(日)	OBOG 交流会②	オンライン	延べ48名	2023年3月卒・修了予定者
21日(火)	就活ミニ講座 2023 ③ 面接のポイント再確認	対面	3名	2023年3月卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（英語）	オンライン	6名	国際学生
22日(水)	1月選考会直前対策講座	オンライン	15名	2022年3月卒・修了予定者・既卒者
	模擬体験会（グループディスカッション）	オンライン	23名	2023年3月卒・修了予定者
23日(木)	模擬体験会（集団面接）	オンライン	20名	2023年3月卒・修了予定者
	大学院生のキャリアガイダンス（12月）	オンライン	2名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
27日(月)	博士の交流サロン	オンライン	3名	融合フロンティアフェロー

### 令和4年1月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
6日(水)	博士の交流サロン	オンライン	3名	融合フロンティアフェロー
7日(金)	就活ミニ講座 2023 ① はじめてのエントリーシート	対面	7名	2023年3月卒・修了予定者
11日(火)	卓越大学院プログラム合同募集説明会	オンライン	約50名	主に学部生
13日(木)	就活ミニ講座 2023 ② はじめてのエントリーシート	対面	4名	2023年3月卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（日本語）	オンライン	5名	国際学生

## キャリアサポートセンターの活動

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
14日(金)	就活ミニ講座 2023 ③ トップを目指すグループディスカッション	対面	6名	2023年3月卒・修了予定者
17日(月)・18日(火)	1月学内個別採用選考会	オンライン	33名	2022年3月卒・修了予定者・既卒生
19日(水)	大学院のキャリアガイダンス（1月）	オンライン	2名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
25日(火)	就活ミニ講座 2023 ④ 苦手な人のための個人面接対策	対面	0名	2023年3月卒・修了予定者
26日(水)	キャリアランチ交流会（英語）	オンライン	10名	国際学生
31日(月)	融合フロンティア事業募集説明会	オンライン	200名以上	博士前期課程1年・2年等

### 令和4年2月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
1日(火)・2日(水)	第15回B人セミナー「論文執筆ワークショップ」	オンライン	各127名	大学院生
3日(木)	就活ミニ講座 2023 ① おさえておこう！就活への臨み方	オンライン	7名	2023年4月入社を目指す学生
4日(金)	就活ミニ講座 2023 ② 上手な相談の使い方	オンライン	5名	2023年4月入社を目指す学生
	キャリアランチ交流会（日本語・ES対策：志望動機）	オンライン	10名	国際学生
5日(土)	OBOG交流会③	オンライン	98名	2023年3月卒業・修了予定の学生
8日(火)	就活ミニ講座 2023 ③ 3月企業研究セミナー対策	オンライン	3名	2023年4月入社を目指す学生
9日(水)～11日(金)	Job Fair 2022	オンライン	59名 (着席数336名)	国際学生
15日(火)	キャリアランチ交流会（英語・Document Preparation）	オンライン	9名	国際学生
16日(水)	就活ミニ講座 2023 ④ 準備で差がつくオンライン集団面接	オンライン	11名	2023年4月入社を目指す学生
	なんでも相談会	オンライン	8名	国際学生
18日(金)	公務員志望生向け OB・OG 交流会	オンライン	75名 (延べ240名)	全学年、既卒生
21日(月)	社会人スタートアップ講座（身だしなみ・メイク編）	オンライン	36名	2022年3月卒業・修了予定の学生（全学年の学生も参加可）
22日(火)	社会人スタートアップ講座（人生100年時代を生き抜くお金の知識編）	オンライン	58名	2022年3月卒業・修了予定の学生（全学年の学生も参加可）
	緊急応援企画 就活実践集中講座①	オンライン	15名	国際学生
	大学院生のキャリアガイダンス（2月）	オンライン	2名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生
24日(木)	緊急応援企画 就活実践集中講座②	オンライン	18名	国際学生
28日(月)	社会人スタートアップ講座（ビジネスの着こなし編）	オンライン	42名	2022年3月卒業・修了予定の学生（全学年の学生も参加可）

### 令和4年3月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加・閲覧人数	対象者（対象学年等）
1日(火)～5日(土)	企業研究セミナー 2022	オンライン	視聴回数(5日間): 延べ5,650回	2023年3月卒業・修了予定の学生
9日(水)	就活ミニ講座 2023 ① 3月合同説明会、参加後の動き方	オンライン	8名	2023年4月入社を目指す学生
10日(木)	就活ミニ講座 2023 ② トップを目指すグループディスカッション	オンライン	12名	2023年4月入社を目指す学生
	緊急応援企画 就活実践集中講座①	オンライン	15名	国際学生
15日(火)	緊急応援企画 就活実践集中講座②	オンライン	10名	国際学生
17日(木)	ステップバイステップ	対面	3名	全学年、既卒者
18日(金)	就活ミニ講座 2023 ③ 苦手な人のための個人面接対策	オンライン	15名	2023年4月入社を目指す学生
	第16回B人セミナー「公的資金の申請・獲得のためのガイダンス」	オンライン	76名	大学院生
23日(水)	就活ミニ講座 2023 ④ エントリーシート対策 ～志望動機編～	オンライン	14名	2023年4月入社を目指す学生
	第8回博士のキャリアパスウェビナー	オンライン	48名	博士後期課程の学生・ポスドク・後期課程への進学を検討中の前期課程の学生、東海機構の教職員
31日(木)	就活ミニ講座 2023 ⑤ 就職活動の進め方 ～ここで一息入れよう～	オンライン	7名	2023年4月入社を目指す学生

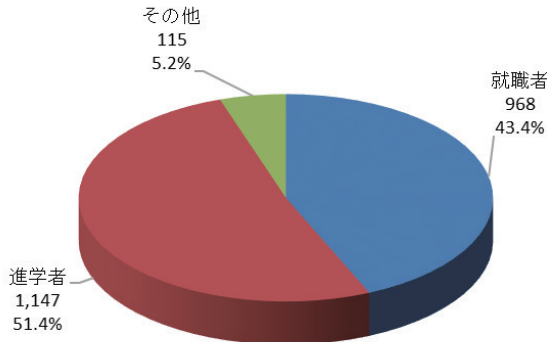
#### 4. 進路状況(令和3年3月卒業・修了生)

本学の学部卒業生全体のうち、約51%の学生が大学院に進学し、約43%の学生が就職している。

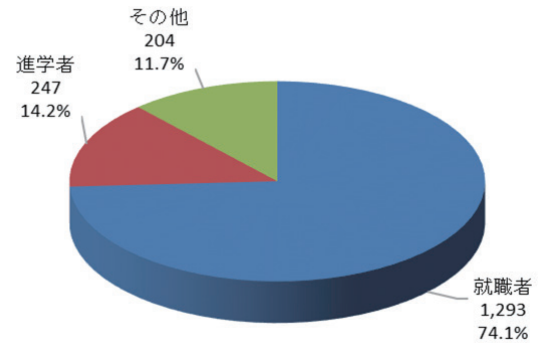
博士前期課程(MC)を修了した大学院生全体のうち、約14%の大学院生が博士後期課程(DC)に進学し、約

74%の大学院生が就職している。

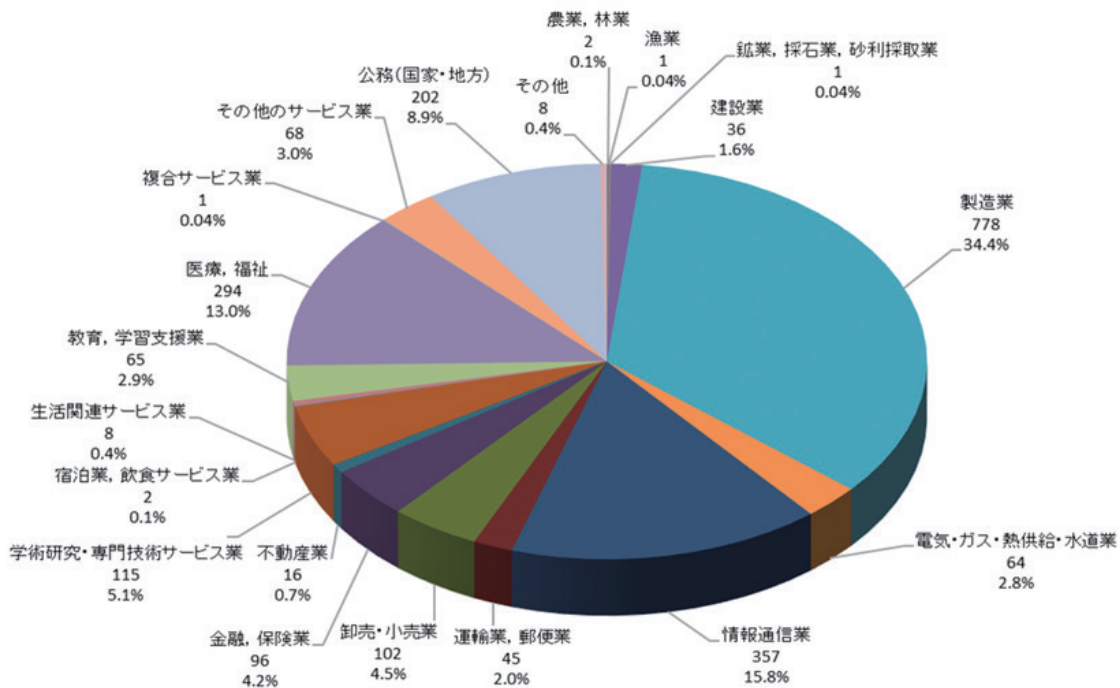
学部生、大学院生を併せた就職先の業種は、製造業が約34%、次いで情報通信業約16%、医療・福祉約13%、公務約9%となっている。



学部卒業生進路状況



大学院博士前期課程修了生進路状況



産業別集計(学部・博士前期課程 合計)

## キャリアサポートセンターの活動

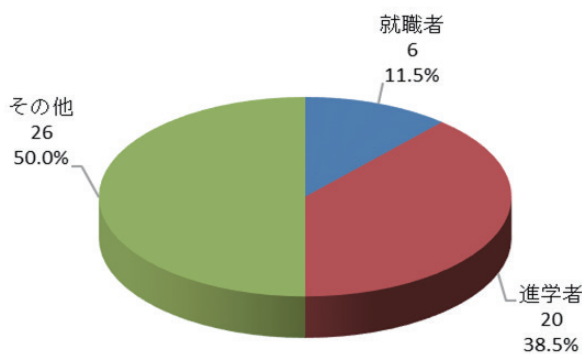
### 5. 国際学生の進路状況（令和3年3月卒業・修了生）

本学の学部卒業留学生全体のうち、約39%の学生が大学院に進学し、約12%の学生が就職している。

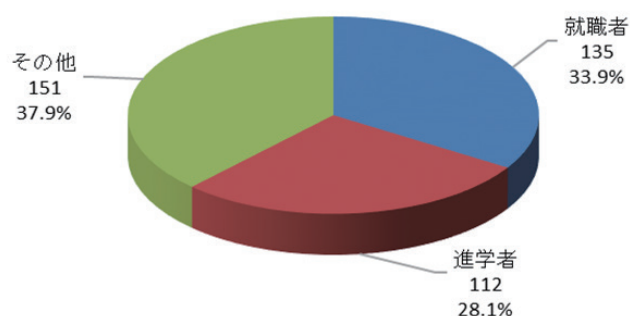
博士前期課程（MC）を修了した大学院留学生全体のうち、約28%の大学院生が博士後期課程（DC）に進学し、

約34%の大学院生が就職しています。

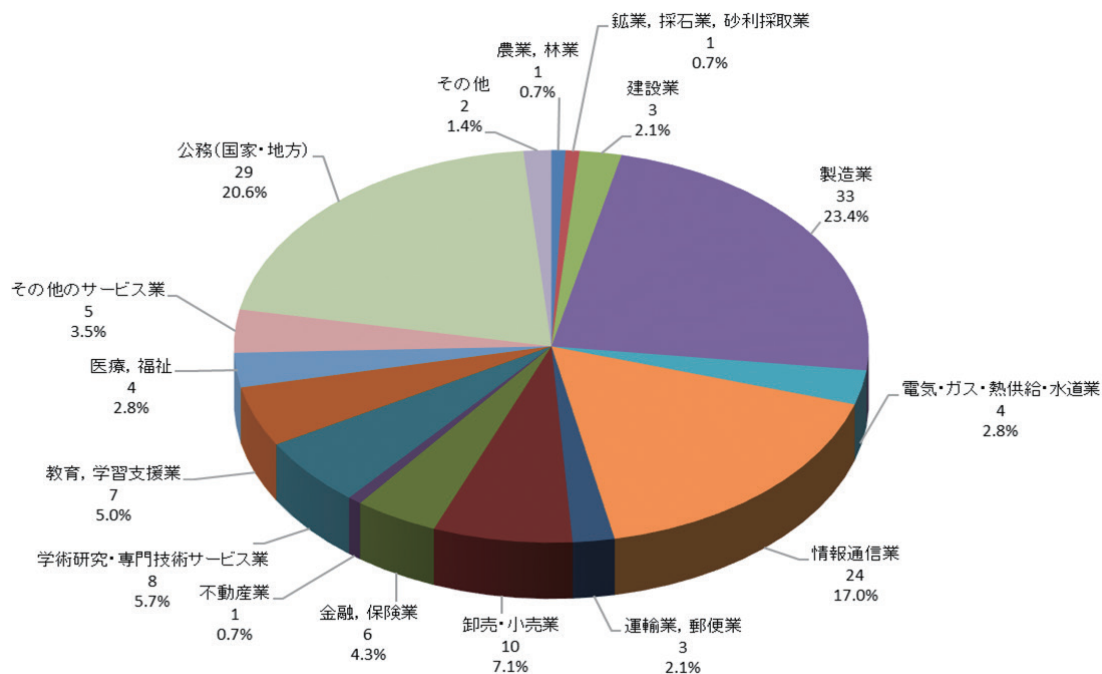
学部生、大学院生を併せた就職先の業種は、製造業が約23%、次いで公務約21%、情報通信業約17%、卸売・小売業7%、と続いています。



学部卒業留学生進路状況



大学院博士前期課程修了留学生進路状況



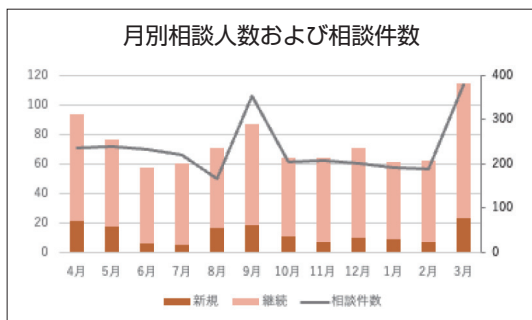
産業別集計（学部・博士前期課程 合計）

## 1. 個別相談概要と特徴

### (1) 個別相談実績報告

・ 月別相談人数と相談件数

2021年度の月別の相談人数と相談件数を以下に示す。

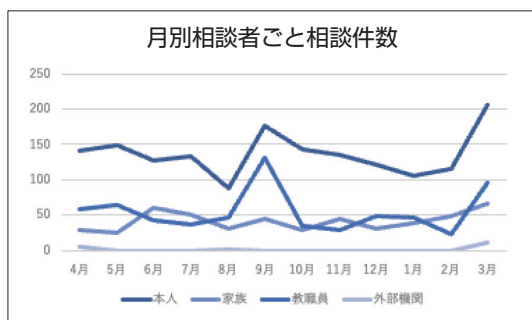


新規相談者について、前年度とは異なり、2021年度は例年と同様の動きを見せた。4月には新入生を中心とした新規の相談申し込みがあり、学期の始まりを迎える9月末及び3月末に相談申し込みの件数が増えるというものであった。新入生の相談については、特別支援教育の世代となっていることから、高校時代から支援を受けてきた学生の数が増加していることが、1つの特徴であるといえる。他方、修学支援についてより知られるようになったためか、既存の学生からの新規相談申し込みも例年に比べて増加している。また、相談申し込みに伴う教職員との連携も増加していた（それも新規相談者数に参入している）。

相談件数は新規相談者数の増減と一致した継続相談の動きがあったために、学期の前後に数字が高くなり、学期中はやや落ち着く、という変動を示している。これについては、修学支援に関する相談が大きな割合を占めていることから、よく理解できる結果であった。しかしながら、新規相談者数だけではなく、継続の相談者数も増えているために、全体として相談件数は大幅に増加し、2019年度の2.1倍、2020年度の1.7倍となっている。

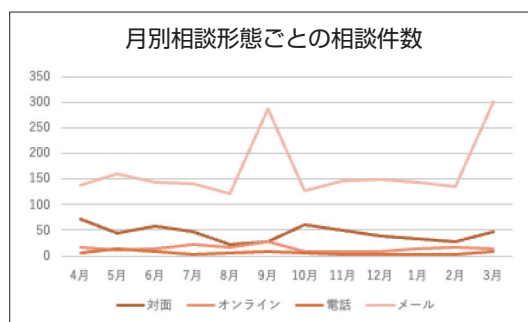
・ 月別相談者ごと相談件数

2021年度の月別の相談者ごとの相談件数内訳を以下に示す。



年間を通して、最も相談にやってきたのは学生本人（全体の58%）であったが、学生の相談の増減と連動する形で教職員との連携の相談もあり、それが23%程度となっている。特に、講義や実習等における合理的配慮に関する相談に関しては、学生が履修している科目の担当教職員と個別に調整を行うことも少なくないため、その件数が大きくなっているといえる。他方、保護者からの相談は年間を通して大きな変動はなく、頻度は高くないものの定期的に相談が行われている状況であった。

・ 月別相談形態ごとの相談件数



2020年度より始まったオンラインでの相談は、昨年ほど頻繁に使われるわけではなかったものの、体調不良の時、大学での講義等がオンラインである時、あるいは大学に来ることが困難である時などに活用され、新しい相談のチャンネルとして機能している。他方、多くの相談はメールで行われ、これは各種のリマインド、合理的配慮と鵜に関するフォロー、保護者からの連絡、および教職員との連携といった各側面での基本的なチャンネルとなっている。対面やオンラインでの相談が本格的な相談であるとする、メールでの相談は問い合わせや簡単な確認事項が中心となっている。

・ 月別部門別相談件数

アビリティ支援センターは2020年度より、修学支援部門とライフデザイン支援部門とを設置している。相談について、修学に関する支援（合理的配慮）に関するものと、大学生生活ないしはその後の人生も見据えた支援をおこなうものに分けている。2021年度の各部門での相談者別、また相談形態別の相談件数を以下に示す（実際には両者が混ざる形で相談を受けることもあるため、統計上、1回の相談で両者に関する相談があった場合、それぞれに0.5回とカウントした）。

## アビリティ支援センターの活動

月別相談者ごとの相談形態別相談件数

	対面	オンライン	電話	メール
修学支援				
本人	157	78.5	9	761.5
家族	18	11.5	21	266.5
教職員	61	10	26	503.5
外部機関	1	0	0.5	12
ライフデザイン支援				
本人	265	74.5	3	252.5
家族	17	2.5	8	151.5
教職員	7	0	3	44.5
外部機関	1	0	0.5	2

これを見ると、全体的に修学支援に関する相談が大部分を占めていることが分かる。特にメールを通じた問い合わせ、確認などが多くなっている。当然ながら、教職員との相談については修学支援部門において多くなっている。

他方、本人からの対面での相談はライフデザインに関する支援が多く、対面で話をしていると自分の特性の理解、生活の仕方や対人関係の課題、あるいは社会に出てからの生き方の話題になる、もしくはそうした話題は対面で話すことを希望する、という実態があることが伺える。

### (2) コロナ禍の特徴

新型コロナウイルス感染症に対する脅威は、全国的に低下し、よくも悪くも慣れてきたところがあるように思えるが、それと比例してか、大学内の感染者数も増加していった。アビリティ支援センターの利用学生の中にも感染者、もしくは濃厚接触者が出てくるようになった。これについて、基礎疾患のある学生、不安の強い学生、および家族に高齢者や基礎疾患のある人を抱えている学生からは、通学についての相談を受けることがあった。それを除くと、どの学生もコロナ禍に適応してきている印象を受ける。

とはいえ、すべての学生が大きな問題を抱えることなく過ごしてきたわけではなく、以下のような問題は報告されている。

- ・発達障害のある学生の中に、自己管理の難しい学生がいて、そうした学生はオンライン授業が増えることで他の学生からの情報が得られないこと、学修管理システムである NUCT の情報の見落としがあること、課題などの数が増加して期限内に終わられないこと、後回しにすることで動画視聴や課題提出で行き詰まること、などの問題を抱えやすかった。
- ・オンラインでの開催となる講義について、聴覚障害のある学生の中にはイヤホンの使用が困難であるために、スピーカーの使える個室を必要とする

学生がいた。

- ・ NUCT や大学のポータルサイトの使い方について、1年が経過した後でもまだ不安を感じる学生がいた。
- ・ 大学院生にとっては研究室での活動も制限されており、そのために、同じ研究室の院生同士でも交流が少ない、学会等がオンライン開催となり他の研究者との交流が少ない、他大学との交流も減っており横のつながりがつくりにくい、といった形で、研究の仲間を見つけにくい状況が生じていた。
- ・ 新入生にとっては大学での活動が制限された環境での入学となり、履修登録の仕方、サークル等への参加、同級生との交流などが行えない不安全感があり、特に人からの情報があって情報の整理がしやすい学生にとってはその状況は困難であるようだった。他方、いくつかの利点を経験した学生もいた。
- ・ 生活介助の必要な学生にとって、通学の機会が減ることは介助の支援が受けやすいことでもあった。
- ・ 自分のペースを乱されたくない学生にとっては人と会う機会が減ることはストレスの低減につながった。
- ・ 自己管理に問題を抱えていない学生にとっては、NUCT 上に教材が上げられ、動画配信によって繰り返し視聴する機会が得られることは、学修を容易にするものであった。
- ・ 講義や演習等へのオンライン参加が可能となることで、種々の困難から実家に戻っている学生であっても、部局や教員との調整によっては実家から参加をすることが可能になった。

## 2. その他

### (1) 教育 DX の推進

2021年度はアビリティ支援センターでは学生支援本部として大学の教育 DX 促進のためのプロジェクトに参加した。その内容は、ハイブリッド（ハイフレックス）での参加を可能とするカメラ・マイクなどの機材のライブラリ化、教育のユニバーサルデザイン化の導入（スライド・テンプレートのカラー・ユニバーサルデザイン化、文字サイズの指定、字幕スペースの確保、UDフォントの配布）、動画への字幕付与のための機材整備およびワークフローの確立、であった。2021年度中はその整備を行うだけであったが、2月末から新入生向けオムニバス講義でのスライド・テンプレートの使用、字幕付与を実施し、2022年度にはいくつかの講義で動画配信のための講義の録画にも出向いている。

### (2) 保護者の会の開催

以前より懸案事項であった保護者への支援を提供するために、2022年2月より、月1回（第4月曜日の10:00から11:00）のペースで保護者の会を開催している。まだ始まったばかりであるが、各回4、5人の保護者が参加している。参加者については、話題、背景、困りごとなどのグループの凝集性を考慮して、発達障害を抱えた学生の保護者を対象として、アビリティ支援センターの支援員から声をかけて集めた。

他の保護者と話をする機会は少なく、孤立した状態で本人を支えていたということで、会についての評価は良好である。留年や休学を経験したり、考えていること、新入生の時のつまずきが尾を引いていること、困ったことがあってもなかなか相談をしないこと、そのために何が起きているのか分からず気をもむこと、本人の祖父母から理解をされないこと、など共通した話題が語られている。

### (3) 就労支援ミーティングの共催

キャリアサポートセンターからの提案を受け、障害のある学生の修学支援から就労支援への橋渡しをするためのミーティングをすることとなった。

不定期ではあるが、キャリアサポートセンターで行う障害のある学生を対象としたイベントについての情報共有と、そうしたイベントへのアビリティ支援センターからの参加、それを通じた障害者雇用についての企業の意識や動向の共有を行っている。また、両方のセンターに相談をしている学生もおり、その情報共有の場ともなっている。アビリティ支援センターからは、学生の相談を受けて、学生の中には、職種や作業内容よりもサポート体制や会社内や部局内の人間関係、求められる専門性やスキルよりも仕事の中身が定型的なものか創造的なものか、企業側はどの程度のことを求めているのか、といったことに不安を抱えている学生がいること、そのため、こういった企業でこういった支援が行われているのか、職種や企業名からは分からない具体的などが分かる仕組みがあると良いことを伝えるなどしている。



# ホームカミングデイ企画（同窓会支援事業）報告

## 1. ホームカミングデイ企画主旨



2020年1月ごろから広がりを見せはじめた新型コロナウイルス感染症の流行は、全国の大学の活動に大きな変化をもたらした。社会的にも「ソーシャル・ディスタンス」や「ステイホーム」という言葉に代表されるように、人との接触を控えることが推奨されてきた。このような学生を取り巻く大学・社会環境の変化によって、学生、および、保護者の不安は高まり、学生支援センターに寄せられる相談件数も急増している。授業のオンライン化で学生が通学しないため、かえって学生の大学生活が見えにくくなったと訴える保護者も多い。また、学生は先輩や就職した卒業生との交流によって職業観を育んでいくが、コロナ禍においてはそのような交流も滞っている。本学では、対面・オンラインを通して学生をケアし、保護者にメッセージを発信してきたが、それでも、本来あったはずの人との交流の機会は十分とは言えない。

そこで、今回は「コロナ禍における体験や気持ち、大学生活を語り合い、つながりを取り戻そう」というテーマを設定し、対面又はオンラインによる、学生・卒業生・保護者の世代内・世代間の交流を促す行事を開催した。なお、ここでは、本企画報告をおこなうが、この企画は、名古屋大学全学同窓会の大学支援事業の助成を受けており、本報告は同事業の報告書も兼ねている。

## 2. 当日の活動内容

ホームカミングデイの当日は、①コロナ禍の大学生活を中心としたピアサポーター学生と保護者の交流会（本学に進学希望の高校生の保護者も参加可能）と②キャリアを中心とした在學生、卒業生、保護者による交流会を対面又はオンラインのハイブリッドで実施した。

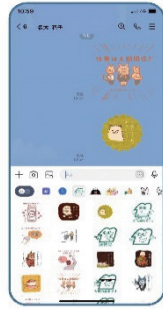
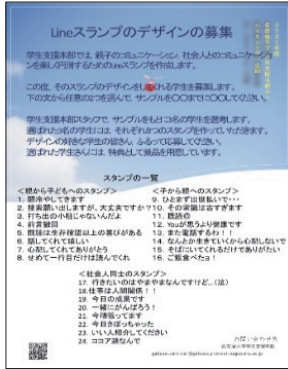
参加者は、卒業生 17 名、在學生 21 名、保護者 16 名、スタッフ 17 名、合計 71 名であった。①では、在學生グループ、保護者グループに分かれ、それぞれのグループで「親が子に、子が親に伝えたい」事柄を自由に話し合い、いくつかの一言フレーズに集約していただいた。②では、在學生と卒業生が就職や社会人生活について意見交換を行い、いくつかの一言フレーズに集約していただいた。

その後、すべてのグループが集まり、話し合われた内容やフレーズについて皆で共有し、投票を経て 24 のフレーズを選出した。選ばれたフレーズには、例えば、親から子に伝えたいメッセージとして、「既読は生存確認以上の喜びがある」「検索願い出しますが、大丈夫ですか?」などがありました。子から親へのメッセージでは、「ひとまず出せ払いで・・・」「なんとか生きていくから心配しないで」「その常識は古すぎます」などがあつた。卒業生（社会人）同士のメッセージでは、「今頑張ってます」「今日さぼっちゃった」「行きたいのはやまやまなんですけど…（泣）」などがあつた。当日の交流会は大いに盛り上がり、世代内・世代間の活発な交流がみられた。親は子どもに早く自立してほしいと思いつつながら心配していること、子どもの方は、そのような親の気持ちは理解しつつ、自立のために適切な距離を取ろうとしていること、などが話題となり、参加者の間で共有された。



### 3. Line スタンプの作成

後日、選出された24のフレーズをLineスタンプにするためのデザインを広く募集した。そのなかから、4名の学生にデザインを依頼し、スタンプを作成した。



HCD 企画  
LINE スタンプイメージ

### 4. Line スタンプの配布

その後、Lineスタンプを当日の参加者、及び、関係者に限定配布した。これらのスタンプが親子間、または、社会人の間で使われることで、コミュニケーションが楽しく、かつ、円滑になることが期待される。

### 5. Line スタンプの例（一部）



## ホームカミングデイ企画（同窓会支援事業）報告

### 6. 参加者アンケートとまとめ

#### (1) アンケートについて

ホームカミングデイ実行委員会がおこなったアンケートの結果のうち、本企画に関する自由記述を以下に示す。

参加者から「趣旨が面白かった」「参加型で、本音が伺えて勉強になった」「同じ悩みや思いを思った方々とお話ができてよかった」などの感想が多く、本企画の趣旨が参加者に十分伝わっていたことが分かった。

#### (2) まとめ

過去数年間、学生支援本部では保護者企画を行っている。そこでできた保護者同士のつながりが、その後も続いており、今年度もそうした保護者同士の関わりがあった。今後も保護者同士の関係性の継続が期待される。このことは保護者によるピアサポートないしは自助の会が生まれつつあることを意味し、学生を支える保護者連携へと発展することを期待した。また、OBOGは就活サポーターを中心に繋がりが作られつつあるが、OBOGの保護者の参加は少なく、ホームカミングデイとしての主旨を考えれば、この点での改善が求められるだろう。

#### ご参加いただいたイベントで良かった点、印象に残っている点を教えてください

オンラインなので気軽に参加できた。OBと話をする良い機会となった。趣旨が面白かった。

ブレイクアウトルームでトークできたのがよかった！OBや現役と話ができてよかったです。

皆さんの本音を伺えて勉強になりました

学生支援の企画が面白かったです。

学生支援本部の企画はとても楽しく、ブレイクルームでの話も盛り上がり、時間が早くすぎて時間が足りないくらいでした。司会の先生方の明るさも、企画を盛り上げている要因で、先生方もすごく楽しまれているのを感じました。

学生支援本部企画は司会の先生方が明るくとてもいい雰囲気だったと思います。またグループに分かれて少人数で話す時間も、一方的なものではなく、みんなが参加出来るととてもよかったです。

今回初めて企画に参加させて頂き、OBOGの方々の生の声を聞く機会が新鮮で有意義な時間でした。社会人や保護者のリアルな視点でLINEスタンプを作成する試みが特に印象的で面白く感じました。

参加者参加型で、本音も言えて、lineスタンプ案が作成できて楽しかったです。

社会人の先輩から、激励のお言葉を頂くことが出来たことです。来年度からの新社会人生活に向けて心構えができました。

就職して社会人になっても、悩むことや考えることがあることが見えました。

親御さんの本音をお聞きして、共感できることが、たくさんありました。悩みを共有でき、明日からの生活に希望を持つことができました。

杉岡先生と船津先生の掛け合いが、ラジオを聞いているかのように明るい雰囲気、学生支援本部のみなさんの仲の良さがとても印象的で、暖かい雰囲気が良かったと思いました。

同じ悩みや思いを持った方々とお話しが出来て良かったです。

親から子へ子から親へ、普段言えない思いをLINEスタンプで伝えるというのは、画期的なアイデアだと思いました。

比較的少人数ではあったが、いろいろと話を聞けてよかった。LINEスタンプを作成するという案についても面白いと感じた。

普段交流できない就サポ OBOGの方とお話できて、勉強になりました。久々にお会いできた方もいて嬉しかったです。

司会の方が底抜けに明るく、気持ち良かった

## その他

### 講義担当

科目名称	対 象	担 当
新入生特別講義「大学生活入門」	学部新入生必修 1 コマ	学生支援本部：スタッフ全員
青年期を考えるー心の健康と将来展望ー	全学教育	学生支援本部：スタッフオムニバス
大学でどう学ぶか	全学教育	船津 静代（就職キャリア相談）
キャリア形成論	全学教育	森 典華（博士人材キャリア支援）・ 船津 静代（就職キャリア相談）
基礎セミナーB	全学教育	鈴木 健一・杉岡 正典（学生相談）
ピア・カウンセリング	全学教養	鈴木 健一（学生相談）・ 船津 静代（就職キャリア相談）・ 工藤 晋平（アビリティ支援）
健康スポーツ科学（精神医学）	全学教育	（オムニバスのうち一部） 古橋 忠晃（メンタルヘルス支援）
文化事情2（フランス）後期	全学教育	（オムニバスのうち一部） 古橋 忠晃（メンタルヘルス支援）
キャリアデザイン演習	教育学部	（オムニバスのうち一部） 船津 静代（就職キャリア相談）
学校心理学Ⅱ	教育発達科学研究科	杉岡 正典・山内 星子（学生相談）
学校心理学2ー精神分析臨床	教育発達科学研究科	鈴木 健一・山内 星子（学生相談）
プロフェッショナル・リテラシー	大学院共通	（オムニバスのうち一部） 森 典華（博士人材キャリア支援）・ 船津 静代（就職キャリア相談）・ 鈴木 健一（学生相談）・松本 寿弥（教育連携）・ 酒井 崇（共修推進）
エンプロイアビリティ	大学院共通	森 典華（博士人材キャリア支援）・ 船津 静代（就職キャリア相談）

### 主な講演

日 程	タイトル	対 象	講演者
5月28日	Spread of "Hikikomori" across Europe following the COVID-19 pandemic (European Congress for Emergency Medicine and Critical Care) (オンライン)	医療従事者	古橋 忠晃
6月17日	The Hikikomori phenomenon and relation to incels ("Radicalisation Awareness Network. The Incel phenomenon : Exploring Internal and External Issues around Involuntary Celibates")	一般向け	古橋 忠晃
6月23日	Construction de l'Échelle pour Évaluer l'État de Hikikomori (Centre hospitalier intercommunal de Créteil Paris) (フランス・パリクレティユ)	フランスの医療従事者	古橋 忠晃
8月3日	フランスの Hikikomori シェン、日本のひきこもり支援 (名古屋市ひきこもり支援セミナー)	名古屋市のひきこもり支援者	古橋 忠晃
9月17日	Reclus et sans projet : qui sont les Hikikomori ? (119e colloque international de l'Association du Congrès de Psychiatrie et de Neurologie de Langue Française) (フランス・ラロシェル)	フランスの精神科医・心理士	古橋 忠晃
9月20日	Le risque d'augmentation au niveau mondial du nombre de Hikikomori après l'épidémie de Covid-19 (Journal Club, Faculté de médecine, Université de Strasbourg) (フランス・ストラスブール)	フランスの精神科医	古橋 忠晃
9月28日	Le risque d'augmentation du nombre de Hikikomori après l'épidémie de Covid-19 (Centre hospitalier intercommunal de Créteil Paris) (フランス・パリクレティユ)	フランスの医療従事者	古橋 忠晃
10月31日	全国大学生協連合会主催「全国大学生サミット」全体会 / 分科会	全国の大学生、大学院生、大学教職員等	鈴木 健一 松本 寿弥 織田万美子
12月16日	Hikikomori: an unusual after-effect of the Covid-19 pandemic (Fondazione Internazionale Menarini Pills of Psychiatric and Neurology 2021 International Web Forum "Psychiatric and Neurological issues in the COVID-19 era: Lessons for the present and the future") (オンライン)	西欧の医療従事者	古橋 忠晃

## その他

日程	タイトル	対象	講演者
12月16日	名古屋市ゲートキーパー講習	名古屋市緑区社会福祉協議会	織田万美子
1月18日	2021年度立命館大学生命科学部FD「研究室運営について」(オンライン)	立命館大学生命科学部教職員	鈴木 健一
2月21日	愛知県主催 第5回 留学生採用講座「外国人留学生の動向と大学の取り組み」	企業、官公庁、教育機関	佐藤 幸代
2～3月	岐阜県主催「障害者雇用ナビゲーター養成研修」	岐阜県内に事業所がある企業・行政機関の障がい者雇用担当者 / 現場担当者	鈴木 健一 工藤 晋平
3月4日	東北大学令和3年度学生生活支援審議会FD(第4回)「名古屋大学におけるコロナ禍の学生支援」(オンライン)	東北大学教職員	鈴木 健一
3月10日	Hikikomori : maladie ou mode de vie ? (Centre Hospitalier Intercommunal de Créteil, Paris) (フランス・パリクレティユ)	フランスの医療従事者	古橋 忠晃
3月30日	"Hikikomori (social withdrawal) in Japan and France: exploring creative activities for promoting connection back to society" ("Islands in the Global Age: Identification, Estrangement and Renewal in the East-West Dialogue") (オンライン)	日英の大学関係者	古橋 忠晃

### その他の主な学外イベント

日程	タイトル	対象	担当
12月14日	こころの絆創膏セミナー 「様々なかたちに変容しつつある若者たちの希死念慮 -コロナ禍におけるこころの支援の在り方-」	愛知県の大学教職員	メンタルヘルス 支援

その他

東海国立大学機構における岐阜大学との学生支援連携

アカデミック・セントラル人生構想力教育共創部門会議

学生支援連携会議

今年度計2回の会議を開催し、名古屋大学と岐阜大学の学生支援に関する情報交換を行った。

学生支援担当者会議（現場の支援実践における情報の交換と連携）

「自殺予防について」をテーマに12月に情報交換会を開催した。

やろまいワークショップ

キャリア教育の一環としてリーダーシップを学ぶことを目的に、名古屋大学と岐阜大学の学生を対象とした、リーダーシップ教育の専門講師とパートナー企業によるワークショップ・座談会等を開催し、2021年度は延べ124名が参加した。

リーダーシップ×グループワークで新しい自分へ！  
**やろまいワークショップ**  
名古屋大学と岐阜大学のアモを創出した。リーダーシップ教育の専門講師とパートナー企業による連携です。グループワークには社会人メンターがサポートします。  
【7月参加企業】  
軌道するIT事業とロボティクス事業に特化した、グローバルな経営者を持つ企業！  
Day1 7月1日(木) 15:00~17:00  
世界トップのリーダーシップについて学ぶ  
Day2 7月15日(木) 15:00~17:00  
企業からの課題テーマを解決するグループワーク  
■期間：6月29日(月)~7月15日(木)まで  
■実施場所：名古屋大学と岐阜大学のグループワークを実施予定  
■対象：学生・卒業生・社会人メンター、卒業生  
■定員：最大50名(先着順) ■参加費：無料  
【モニター】6月28日(月)まで  
■応募フォームからエントリー  
https://forms.gle/7W4qj3W8scv46kdvE  
【お問い合わせ】  
名古屋大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
岐阜大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
東海国立大学機構 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二

やろまいワークショップ PRESENTS  
**リーダーシップガイダンス**  
自分のキャリアを「リーダーシップ」を視点で考えるワークショップ  
「リーダーシップ」とは、誰でも発揮できるライフスキルです。具体的にどんなもの？自分でもできるの？  
■対象：学生・卒業生・社会人メンター、卒業生  
■定員：最大50名(先着順) ■参加費：無料  
【モニター】6月28日(月)まで  
■応募フォームからエントリー  
https://forms.gle/7W4qj3W8scv46kdvE  
【お問い合わせ】  
名古屋大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
岐阜大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
東海国立大学機構 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二

やろまいワークショップ PRESENTS  
**企業人から学ぶリーダーシップ**  
企業人と一緒に「リーダーシップ」を学べる座談会  
「リーダーシップ」とは、誰でも発揮できるライフスキルです。企業ではどんなリーダーシップが求められているのか聞いてみましょう。  
司会者 藤原 望 小田 航  
講師 小田 航  
【日時】7月12日(水) 17:10~17:55(45分)  
【参加費】無料  
【申し込み】名古屋大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
【お問い合わせ】  
名古屋大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
岐阜大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
東海国立大学機構 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二

Compus (Communication on Campus)

ともに生き生きとした社会を作り出せる人材育成を目指して、名古屋大学と岐阜大学の学生を対象とした、コミュニケーション力向上プログラムを企画した。初年度は3回実施し、延べ45名の学生が参加した。

Compus on 東海国立大学機構

- 2021年10月30日(土) 10時~15時  
参加者数：名大15名、岐大1名  
開催方法：オンライン (oVice)
- 2022年1月8日(土) 10時~15時  
参加者数：名大18名  
開催方法：対面
- 2022年3月12日(土) 10~15時  
参加者数：名大11名  
開催方法：オンライン (oVice)

Compus  
Communication on campus  
On 東海国立大学機構  
コミュニケーション力向上プログラム  
Compusとは、ともに生き生きとした社会を作り出せる人材育成を目指して、名古屋大学と岐阜大学の学生を対象とした、コミュニケーション力向上プログラムです。  
【日時】2021年10月30日(土) 10:00~15:00  
【場所】オンライン  
【対象】名古屋大学、岐阜大学の学生で、コミュニケーション力を向上させたい学生  
【定員】30名(先着順) 参加費：無料  
【お問い合わせ】  
名古屋大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
岐阜大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
東海国立大学機構 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二

Compus  
Communication on campus  
On 東海国立大学機構  
コミュニケーション力向上プログラム  
Compusとは、ともに生き生きとした社会を作り出せる人材育成を目指して、名古屋大学と岐阜大学の学生を対象とした、コミュニケーション力向上プログラムです。  
【日時】2022年1月8日(土) 10時~15時  
【場所】名古屋大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
【対象】名古屋大学、岐阜大学の学生で、コミュニケーション力を向上させたい学生  
【定員】30名(先着順) 参加費：無料  
【お問い合わせ】  
名古屋大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
岐阜大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
東海国立大学機構 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二

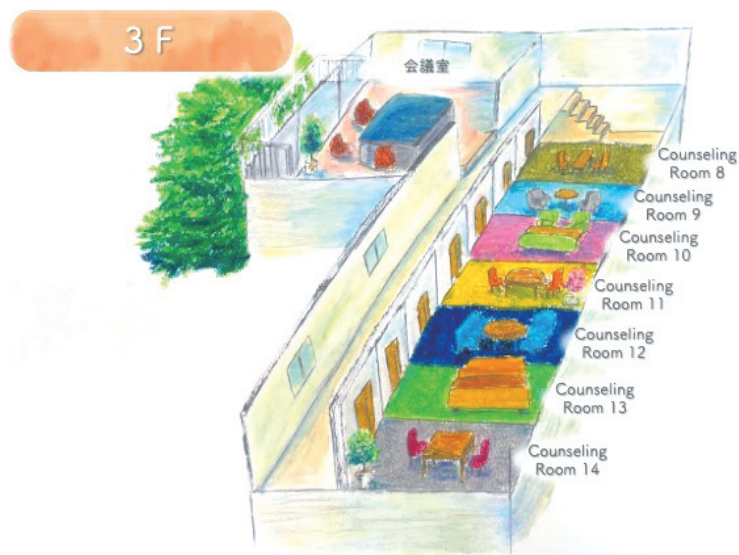
Compus  
Communication on campus  
On 東海国立大学機構  
コミュニケーション力向上プログラム  
Compusとは、ともに生き生きとした社会を作り出せる人材育成を目指して、名古屋大学と岐阜大学の学生を対象とした、コミュニケーション力向上プログラムです。  
【日時】2022年3月12日(土) 10時~15時  
【場所】オンライン (oVice)  
【対象】名古屋大学、岐阜大学の学生で、コミュニケーション力を向上させたい学生  
【定員】30名(先着順) 参加費：無料  
【お問い合わせ】  
名古屋大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
岐阜大学 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二  
東海国立大学機構 学生支援センター 学務課 学務課長 藤田 浩二

## 学生支援本部案内図

### 学生支援本部 2F



### 3F



### 名古屋大学 学生支援本部

#### 学生支援棟

- ・学生相談センター
- ・キャリアサポートセンター

#### 全学教育棟 3F

- ・アビリティ支援センター

#### 東山キャンパス保健管理室

- ・メンタルヘルス支援部門

#### IB電子情報館

- ・共修推進部門

#### 開室時間

月～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

#### 連絡先

TEL 052 (789) 5805

#### E-mail

soudan@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp

#### 住所

〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学学生支援本部

#### ホームページ

<https://www.gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp>

## 学生支援本部スタッフ一覧

(2022年4月1日現在)

### 学生支援本部スタッフ

本部長 佐久間淳一(副総長、学生支援担当)  
副本部長 鈴木健一

### 学生相談センター

カウンセリング部門 教授(承) 鈴木健一<sup>○</sup> 准教授(承) 杉岡正典 相談員 小橋亮介  
教育連携室 講師 松本寿弥 学術専門職 織田万美子  
メンタルヘルス支援部門 准教授 古橋忠晃 助教 長島渉 助教 横井綾  
共修推進部門(兼任) 教授(承) 田中京子 特任准教授 高木ひとみ 特任准教授 酒井崇 特任講師 和田尚子

### キャリアサポートセンター

就職支援部門(兼任) 教授(承) 土井康裕<sup>○</sup>  
就職キャリア相談部門 准教授 船津静代 助教 竹本美穂  
博士人材キャリア育成部門(兼任) 特任准教授 森典華  
国際キャリア支援部門 学術専門職 佐藤幸代

### アビリティ支援センター

修学支援部門 准教授(承) 工藤晋平<sup>○</sup> 相談員 伊藤芳明  
ライフデザイン支援部門 障害者支援専門職 井手原千恵

### 非常勤カウンセラー

学生相談センター  
カウンセリング部門 堀 匡 大塚穂絵 リママユミ 二宮有輝 本田奈々子  
キャリアサポートセンター  
就職キャリア相談部門 栗原リエ  
アビリティ支援センター  
修学支援部門 吉田奈央  
総合受付 大江美希  
アビリティ支援センター受付 美濃屋梓  
カウンセリング部門受付 吉田典子

\* ○ :センター長  
(承):承継枠教員ポスト